

松戸市
障害者計画策定のためのアンケート調査
調査結果報告書

令和8年3月

松 戸 市

I 調査の概要

1 調査の目的

今後の障害者施策の推進を図るため、現行の障害者計画を見直し、令和9年度から始まる次期計画の策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

区分	調査対象	対象数
① 障害者 (18歳以上) 調査	市内在住の18歳以上の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病指定を受けている方	4,000人
② 障害児 (18歳未満) 調査	市内在住の18歳未満の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、難病指定を受けている方	1,000人
③市民調査	市内在住の①障害者調査、②障害児調査、④医療的ケア児実態・ニーズ調査に該当しない方	1,000人
③ 医療的ケア児 実態・ニーズ調査	市内の医療的ケア児およびその保護者	147人
④ 障害福祉サービス 事業所調査	障害福祉サービス等を提供している市内の全事業所	420カ所
⑥基幹相談支援センター	障害福祉に係る相談支援の中核的な役割を担う機関として、市から委託を受けた法人が設置している基幹相談支援センター	3カ所
⑥関係団体調査	障害福祉に係る関連団体 ・障害者当事者、及び父母の任意団体等	10カ所

区分	調査の目的
① 障害者 (18歳以上) 調査	障害者の現在の生活の実態や課題、障害福祉サービス等の利用状況や利用意向、障害者施策に対する意見・要望等を把握する。
② 障害児 (18歳未満) 調査	障害児の現在の生活の実態や課題、障害福祉サービス等の利用状況や利用意向、障害者施策に対する意見・要望等を把握する。
③市民調査	障害福祉に対する意識や意向、福祉のまちづくりに向けた意見等を把握する。
⑤ 医療的ケア児 実態・ニーズ調査	本市に居住する医療的ケア児及びその家族の現状や支援ニーズ、教育・保育の現状・課題、災害時等の支援等について把握する。
⑥ 障害福祉サービス 事業所調査	サービスを実施している各事業所の運営状況・サービスの提供状況等の実態や課題、医療的ケアに係る取組意向や災害時の対策等について把握する。
⑥基幹相談支援センター	障害福祉に係る相談支援に深く携わる機関から、現在の障害者施策に係る評価や課題等を把握する。
⑥関係団体調査	障害者当事者、及び父母の任意団体から、現在の障害者施策に係る評価や課題等を把握する。

3 調査期間

令和7年9月18日から令和7年10月9日

4 調査方法

郵送による配布・回収

インターネットによる回答

5 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	回収率
障害者 (18歳以上) 調査	4,000通	2,356通	58.9%
障害児 (18歳未満) 調査	1,000通	577通	57.7%
市民調査	1,000通	534通	53.4%
医療的ケア児 実態・ニーズ調査	147通	91通	61.9%
障害福祉サービス 事業所調査	420通	250通	59.5%
基幹相談支援センター	3通	3通	100.0%
関係団体	10通	9通	90.0%

※あて所なしで返戻となった数は以下となります。

障害者：29件、障害児：1件、市民：7件、事業所：1件、関係団体：1件

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。(無回答を除く)
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

II 調査結果のまとめ

今回のアンケート調査の目的の一つとして、「第5次松戸市障害者計画において設定した目標値の達成状況を把握すること」が挙げられます。このことから、本章において今回の調査から把握できた目標値の達成状況や、その他主要な関連項目について、障害者計画において設定している各節ごとに整理しました。

第1節 地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進

既計画において設定した各種数値目標は改善傾向にある指標もあるものの、概ね目標値に達することはできていません。

また、地域共生社会、成年後見制度、合理的配慮等の用語認知率及び障害のある人に対する差別・偏見があると回答した人の割合は改善傾向にありますが、目標値には至っていない指標もあり、引き続き地域共生社会の実現に向けて施策を検討する必要があります。

現計画目標値

施策項目	指標値	令和4年度	令和7年度	目標値	出典元
市民意識の醸成	「障害のある人とふれあう機会がない」と回答した人のうち「交流したいとは思わない・わからない」と回答した人の割合（市民向け調査）	28.4%	44.9%	21.0%	P.168 (市民調査)
地域福祉活動の推進	「ボランティア活動に参加したことがある」と回答した人の割合（市民向け調査）	20.6%	17.6%	23.0%	P.181 (市民調査)
権利擁護 ※ 体制の推進	人権を損なう経験について「特にない」と回答した人の割合（障害者向け調査、障害児向け調査）	67.4%(者) 64.8%(児)	67.9%(者) 71.4%(児)	70.0%(者) 70.0%(児)	P.64 (障害者調査) P.140 (障害児調査)

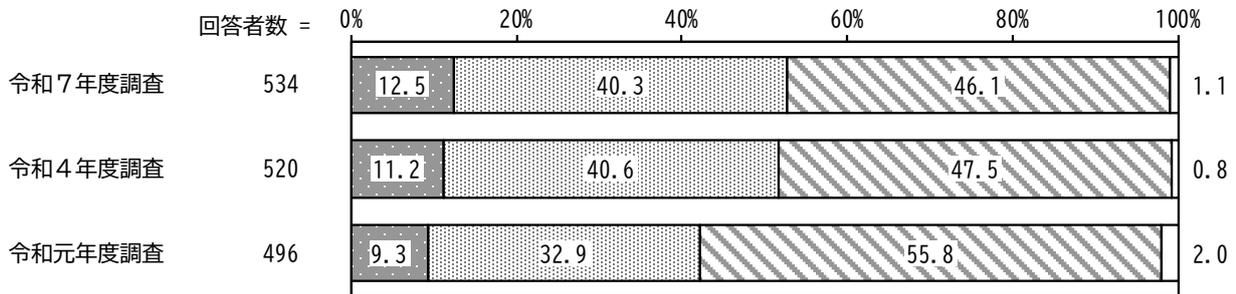
(参考指標)

目標	令和4年度	令和7年度	目標値	出典元
「障害のある人に対する差別・偏見があると思う」と回答した人の割合	身体障害者 47.9% 知的障害者 58.5% 精神障害者 58.5%	身体障害者 47.8% 知的障害者 56.6% 精神障害者 56.4%	身体障害者 38.0% 知的障害者 48.0% 精神障害者 48.0%	P.173 (市民調査)
「成年後見を知っている」と回答した人の割合	43.8%	44.3%	50.0%	P.69 (障害者調査)
「合理的配慮を知っている」と回答した人の割合	19.7%	22.5%	24.0%	P.67 (障害者調査)

参考数値

地域共生社会の認知度（市民向け調査）

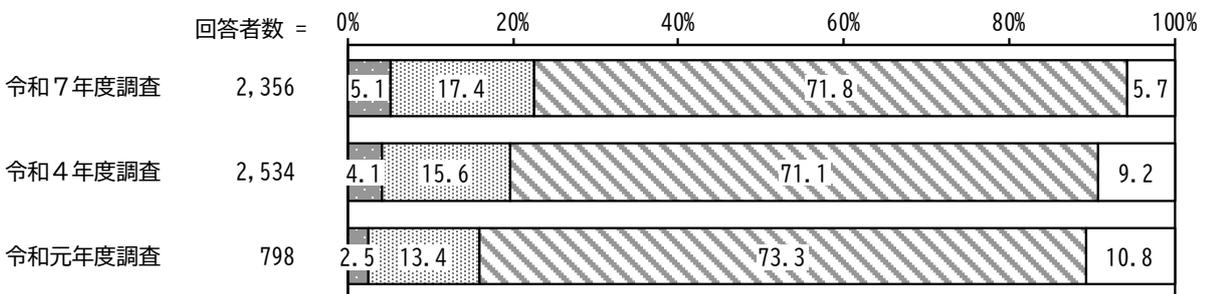
■ 内容まで知っていた ■ 言葉だけは知っていた ■ この問いで初めて知った □ 無回答



合理的配慮を知っている、または求めたことがあるか（障害者向け調査、障害児向け調査）

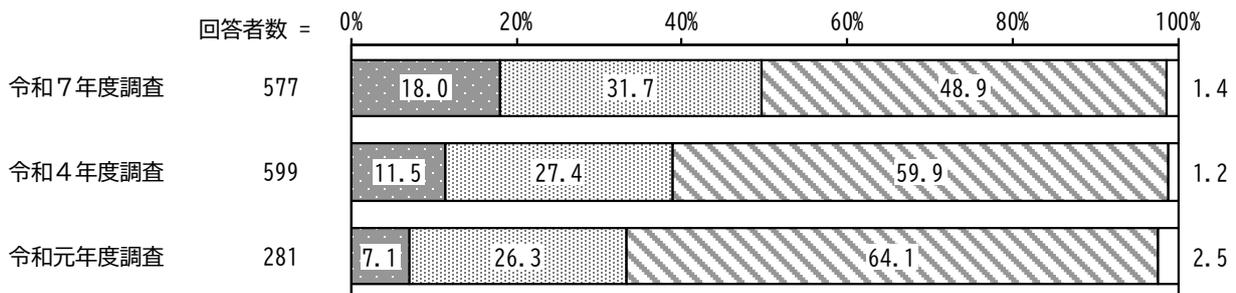
（障害者）

■ 知っており、合理的配慮を求めたことがある
 ■ 知っているが、合理的配慮を求めたことはない
 ■ 今まで知らなかった
 □ 無回答



（障害児）

■ 知っており、合理的配慮を求めたことがある
 ■ 知っているが、合理的配慮を求めたことはない
 ■ 今まで知らなかった
 □ 無回答



第2節 ライフステージに応じた切れ目のない支援

既計画において設定した数値目標のうち、「医療的ケアを実施している」と回答した事業所については27カ所で、令和4年度の19カ所と比較して増加しており、目標値を達成しています。しかし、医療的ケアを家族以外に依頼できる人がいないと回答している人が4割近くいることから、引き続き支援体制の整備に向けた取組を進めていく必要があります。

現計画目標値

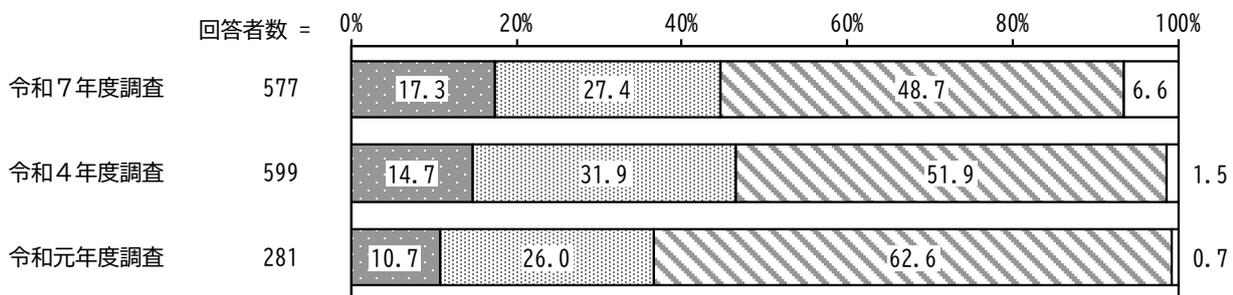
施策項目	指標値	令和4年度	令和7年度	目標値	出典元
医療的ケア児等の支援体制の整備*	「医療的ケアを実施している」と回答した事業所の割合(事業所向け調査)	8.9% (19/213)	11.7% (27/230)	10.3% (22/213)	P. 293 (事業所調査)

* 居宅介護、生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービスに係る事業所数を目標値としています。このことからP. 293において整理された数値と若干の誤差があります。

参考数値

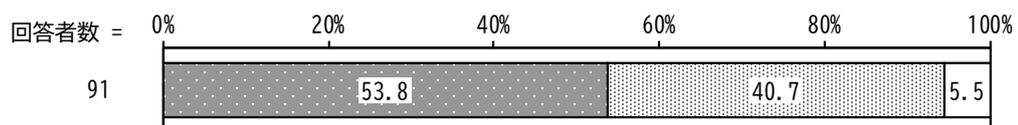
ライフサポートファイルの認知率（障害児向け調査）

■ 知っており、利用している（利用したことがある）
 ▨ 知っているが、利用したことはない
 ▩ 今まで知らなかった
 □ 無回答



家族による医療的ケアが困難な場合、代わりにケアを依頼できる相手の有無（医療的ケア児向け調査）

■ いる
 ▨ いない
 □ 無回答



第3節 生きがいをもった社会参加の促進

第5次障害者計画において第3節で目標値を設定したもののうち、本調査から達成状況を把握できるものはありませんが、関連する項目について整理していきます。

以下の表にある通り、現在「就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センターを利用されている方」のうち30%は、将来的に一般就労や自営業等につきたい意向があることが分かりました。

また、現在「家庭内で過ごしている方」のうち15.7%は、将来的に一般就労や障害のある人のための通所施設に通いたい意向があることが分かりました。

この結果からも「生きがいをもった社会参加の促進」を引き続き推進していく必要があります。

参考数値

将来日中をどのように過ごしたいか（障害者向け調査）

単位：％

区分	将来の希望															
	回答者数(件)	正職員・松戸市内勤務	正職員・松戸市外勤	正職員以外・松戸市内勤務	正職員以外・松戸市外勤務	在宅勤務	自営業	就労移行支援、就労継続支援、地	通所サービス・介護保険の通所サ	病院などのデイケアを利用	学校に通いたい	家庭内で過ごしたい	その他	特にな	無回答	
現在	正職員・松戸市内勤務	53	66.0	5.7	7.5	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	7.5	1.9	
	正職員・松戸市外勤務	181	17.7	45.3	1.1	1.7	5.5	3.9	1.1	0.6	1.1	0.0	6.6	1.1	11.6	2.8
	正職員以外・松戸市内勤務	90	23.3	4.4	38.9	1.1	2.2	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	12.2	1.1	8.9	1.1
	正職員以外・松戸市外勤務	169	13.0	21.9	8.9	19.5	3.6	1.8	0.0	0.0	0.0	0.6	11.2	3.0	13.6	3.0
	在宅勤務	34	0.0	5.9	0.0	2.9	70.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	2.9	5.9	0.0
	自営業	66	3.0	0.0	1.5	0.0	3.0	39.4	0.0	1.5	3.0	0.0	16.7	3.0	18.2	10.6
	就労移行支援、就労継続支援、地域活動支援センターを利用	156	10.9	3.8	5.1	0.6	6.4	3.2	46.2	5.8	0.6	0.0	1.3	5.1	5.1	5.8
	通所サービス・介護保険の通所サービスを利用	194	1.0	1.0	0.0	0.0	1.5	0.0	6.7	53.6	1.5	1.0	17.5	1.5	7.7	6.7
	病院などのデイケアを利用	42	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0	2.4	7.1	7.1	52.4	0.0	11.9	2.4	9.5	2.4
	学校に通っている	27	33.3	29.6	3.7	0.0	7.4	3.7	3.7	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0	11.1	0.0
	家庭内で過ごしている	972	1.4	0.8	1.9	0.4	5.3	1.4	2.4	2.1	2.2	0.1	51.6	3.8	17.2	9.4
	その他	200	1.0	3.0	2.0	0.5	2.5	0.5	3.5	2.0	1.5	0.5	17.0	22.0	39.5	4.5

第4節 自立した地域生活の支援

既計画において設定した各種数値目標について、緊急一時支援の認知率は上昇しています。また、基幹相談支援センターの認知度は改善傾向にありますが、「手話をコミュニケーションの手段として積極的に学んで使いたい」と回答した人の割合はわずかに減少し、いずれも目標値の達成には至っていない状況です。障害福祉サービス利用者は増加傾向にあることから、基幹相談支援センターについては引き続き認知度の向上に努める必要があります。

現計画目標値

施策項目	指標値	令和4年度	令和7年度	目標値	出典元
障害福祉サービスの充実	緊急一時支援の認知率	12.3% (者) 16.7% (児)	13.2% (者) 35.3% (児)	25.0% (者) 35.0% (児)	P. 85 (障害者調査) P. 160 (障害児調査)
相談支援体制の充実	「基幹相談支援センターを知っている」と回答した人の割合(障害者向け調査)	23.2%	28.2%	50.0%	P. 39 (障害者調査)
情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実	「手話をコミュニケーションの手段として積極的に学んで使いたい」と回答した人の割合(市民向け調査)	7.7%	6.4%	10.0%	P. 191 (市民調査)

参考数値

地域の基幹相談支援センターの認知度(障害者向け調査、障害児向け調査)

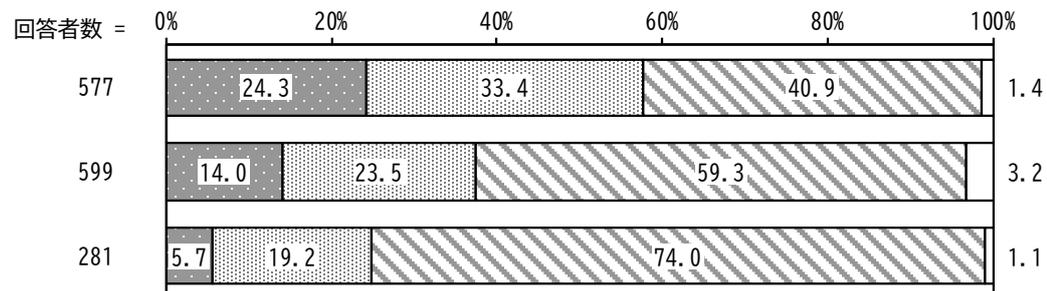
(障害者)

■ 知っており、利用している(利用したことがある) ■ 知っているが、利用したことはない
 ▨ 今まで知らなかった □ 無回答



(障害児)

■ 知っており、利用している(利用したことがある) ■ 知っているが、利用したことはない
 ▨ 今まで知らなかった □ 無回答



第5節 安全安心なまちづくりの推進

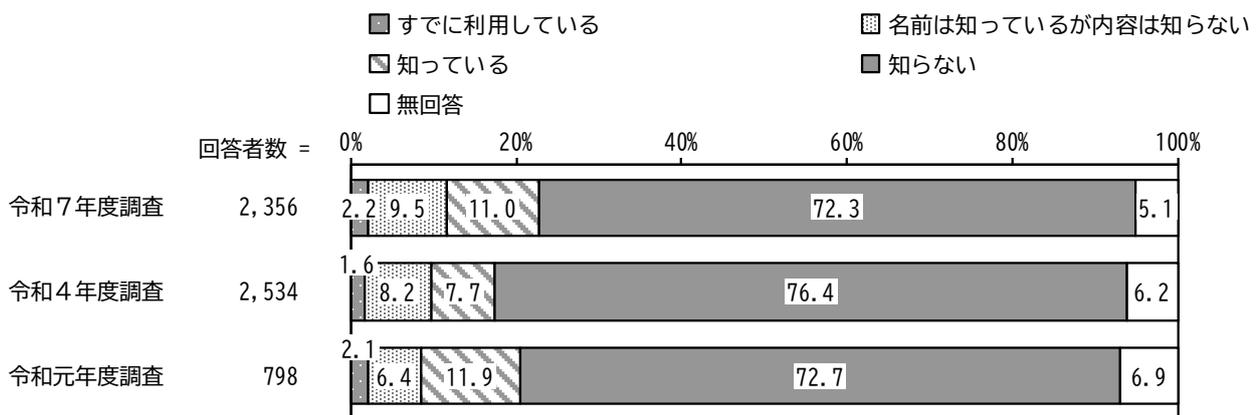
第5次障害者計画において第5節で目標値を設定したもののうち、本調査から達成状況を把握できるものはありませんが、関連する項目について整理していきます。

アンケート調査結果より、避難行動要支援者避難支援制度の認知度は、障害者向け調査、障害児向け調査ともに令和元年度から上昇傾向にはありますが、全体の2割程度となっています。

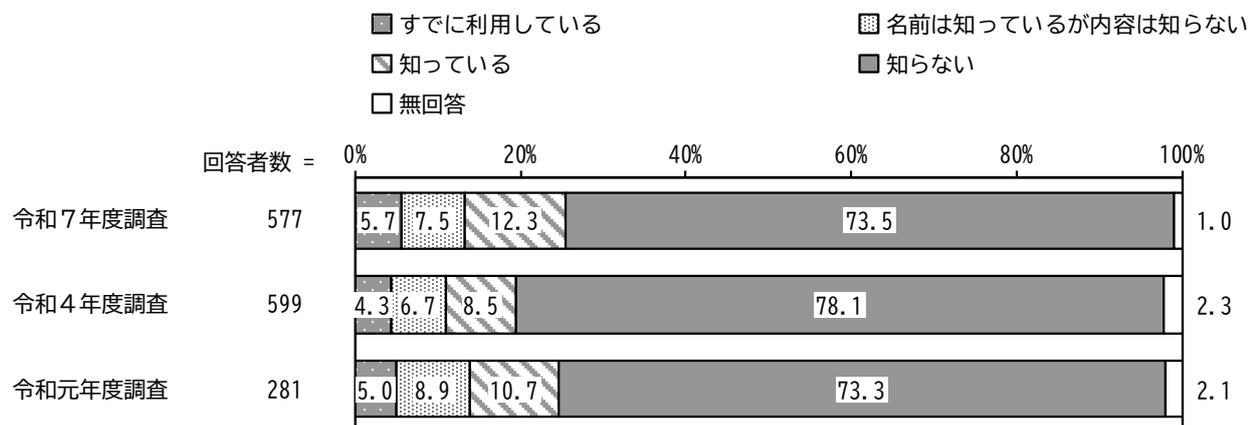
また、医療的ケア児（者）調査では避難行動要支援者避難支援制度に登録している人は全体の約半数となっていることから、対象者本人及び家族への制度の周知が必要です。

参考数値

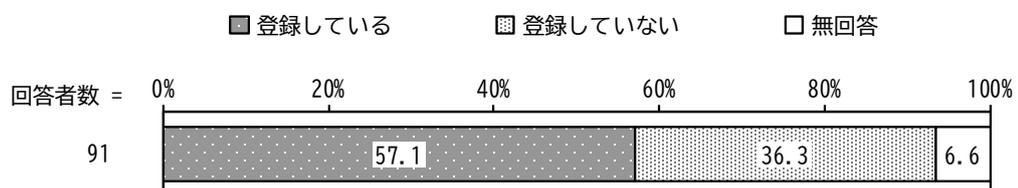
避難行動要支援者避難支援制度の認知度（障害者向け調査）



避難行動要支援者避難支援制度の認知度（障害児向け調査）



避難行動要支援者避難支援制度の登録の有無（医療的ケア児（者）向け調査）



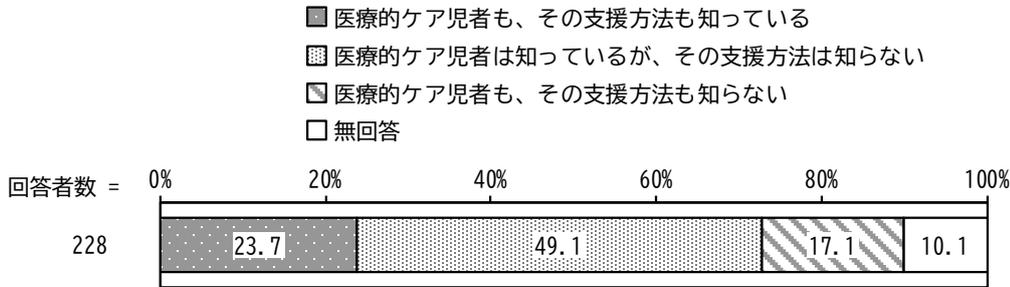
事業所

(7) 医療的ケア児者への支援の実施について

相談支援事業所は問 37 にお進みください。

問 27 医療的ケア児者やその支援方法について知っていますか。(1つに○)

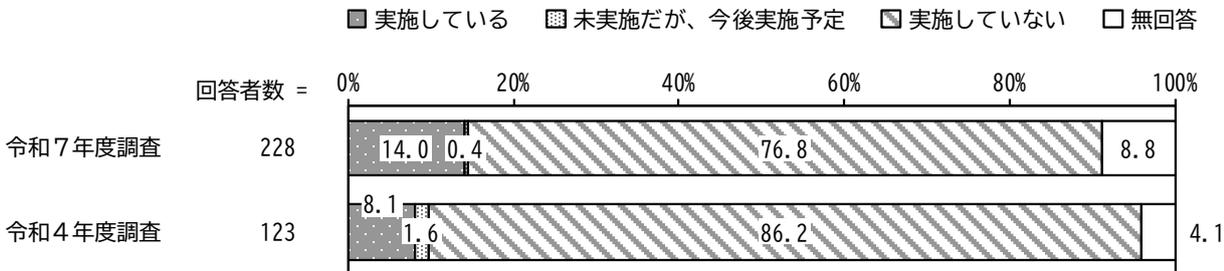
「医療的ケア児者も、その支援方法も知っている」の割合が 23.7%、「医療的ケア児者は知っているが、その支援方法は知らない」の割合が 49.1%、「医療的ケア児者も、その支援方法も知らない」の割合が 17.1%となっています。



問 28 貴事業所において、医療的ケア児者に対する支援を実施していますか。(1つに○)

「実施している」の割合が 14.0%、「未実施だが、今後実施予定」の割合が 0.4%、「実施していない」の割合が 76.8%となっています。

令和 4 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施していない」の割合が減少しています。



医療的ケア児に対する支援予定時期

有効回答がありませんでした。

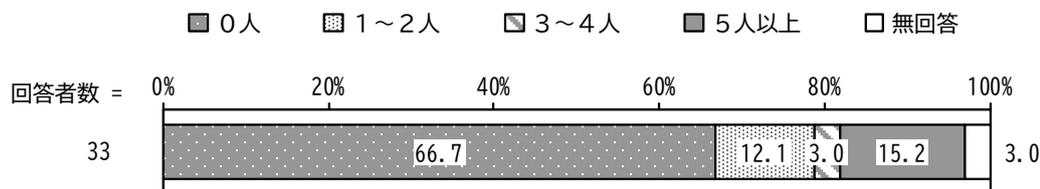
事業所

【医療的ケアを実施又は実施予定の事業所への質問です】

問 29 医療的ケアを実施している利用者の人数についてお答え下さい。(実施予定の場合は、現段階での予定人数をお答えください)

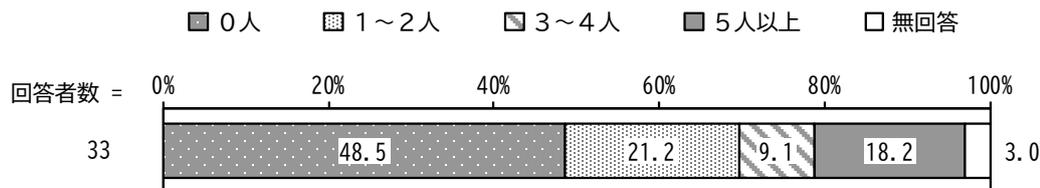
未就学児

「0人」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「5人以上」の割合が 15.2%、「1～2人」の割合が 12.1%となっています。



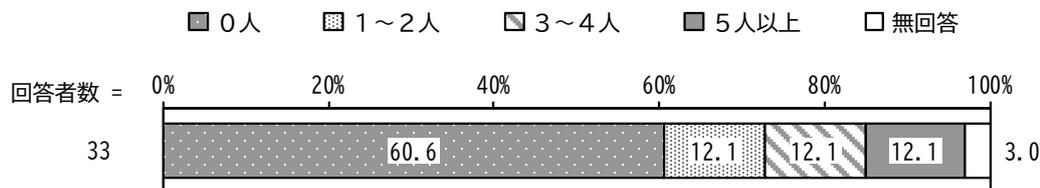
就学後～18歳未満

「0人」の割合が 48.5%と最も高く、次いで「1～2人」の割合が 21.2%、「5人以上」の割合が 18.2%となっています。



18才以上

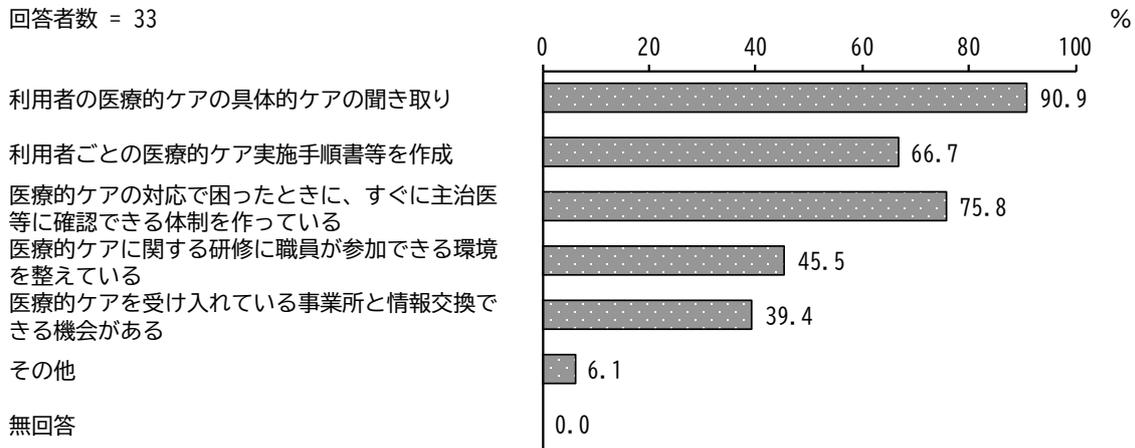
「0人」の割合が 60.6%と最も高く、次いで「1～2人」、「3～4人」、「5人以上」の割合が 12.1%となっています。



問 30 医療的ケアを実施する（又は実施予定とする）ために、貴事業所では、どのような工夫を行っていますか。事業運営上の工夫等について、お答えください。
（あてはまるものすべてに○）

「利用者の医療的ケアの具体的ケアの聞き取り」の割合が 90.9%と最も高く、次いで「医療的ケアの対応で困ったときに、すぐに主治医等に確認できる体制を作っている」の割合が 75.8%、「利用者ごとの医療的ケア実施手順書等を作成」の割合が 66.7%となっています。

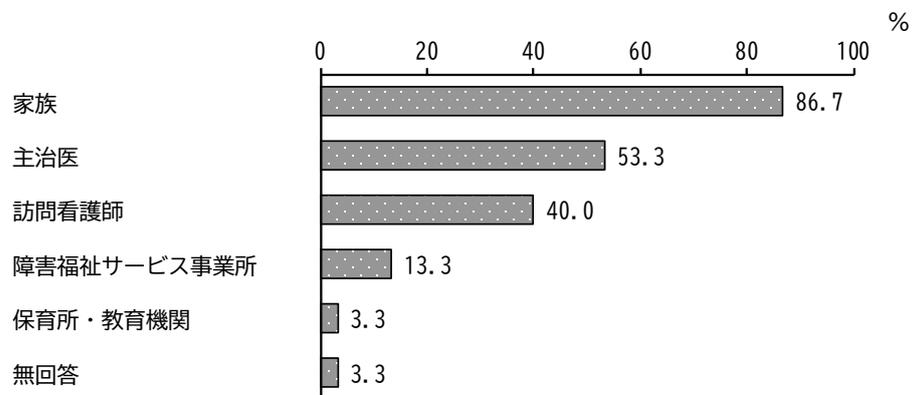
回答者数 = 33



利用者の医療的ケアの具体的ケアの聞き取り

「家族」の割合が 86.7%と最も高く、次いで「主治医」の割合が 53.3%、「訪問看護師」の割合が 40.0%となっています。

回答者数 = 30

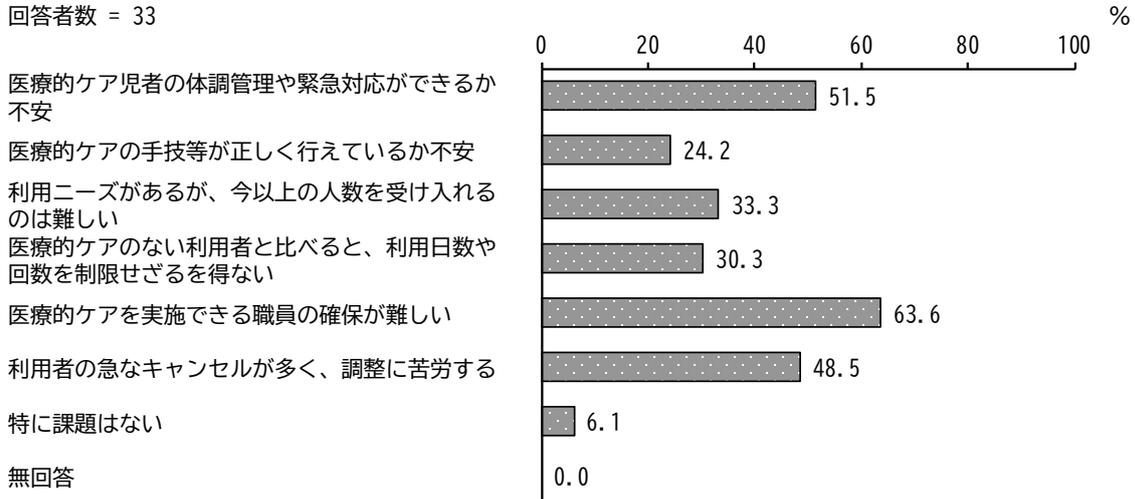


事業所

問 31 医療的ケアの実施に当たって生じた事業運営への影響や、円滑な事業運営を図る上で
の課題などがあれば、お答えください。(あてはまるものすべてに○)

「医療的ケアを実施できる職員の確保が難しい」の割合が 63.6%と最も高く、次いで「医療的ケア
児者の体調管理や緊急対応ができるか不安」の割合が 51.5%、「利用者の急なキャンセルが多く、調整
に苦勞する」の割合が 48.5%となっています。

回答者数 = 33



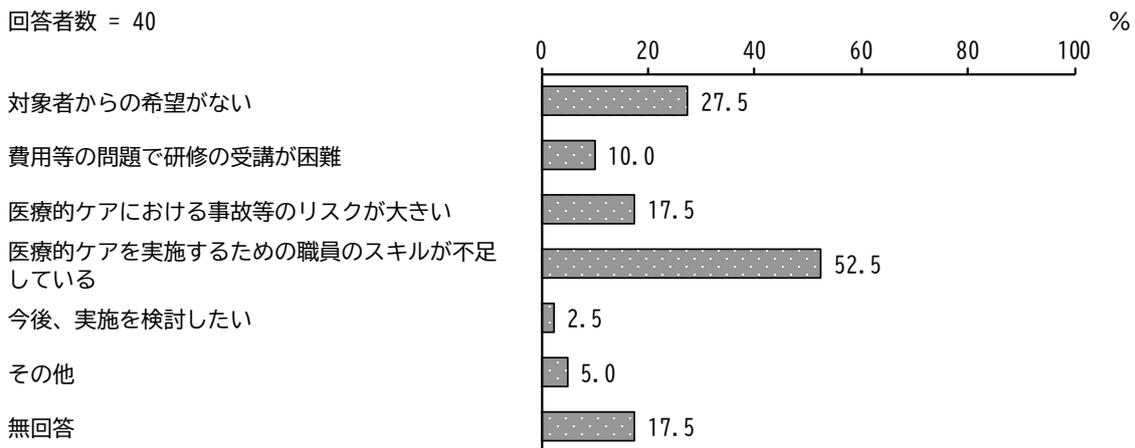
【実施していない事業所への質問です】

問 32 医療的ケアを実施していない理由をお答え下さい。

1. 居宅介護

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が 52.5%と最も高く、次いで
「対象者からの希望がない」の割合が 27.5%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合
が 17.5%となっています。

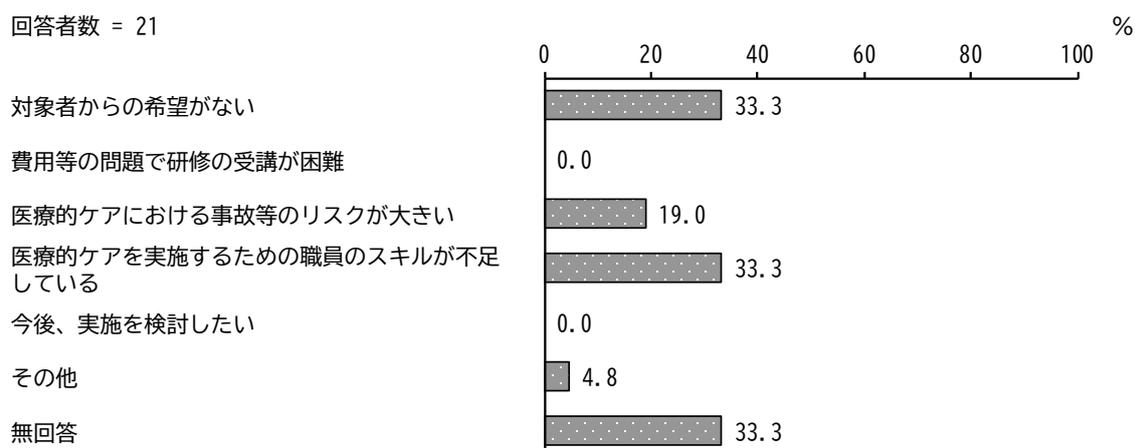
回答者数 = 40



2. 重度訪問介護

「対象者からの希望がない」、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が33.3%と最も高くなっています。

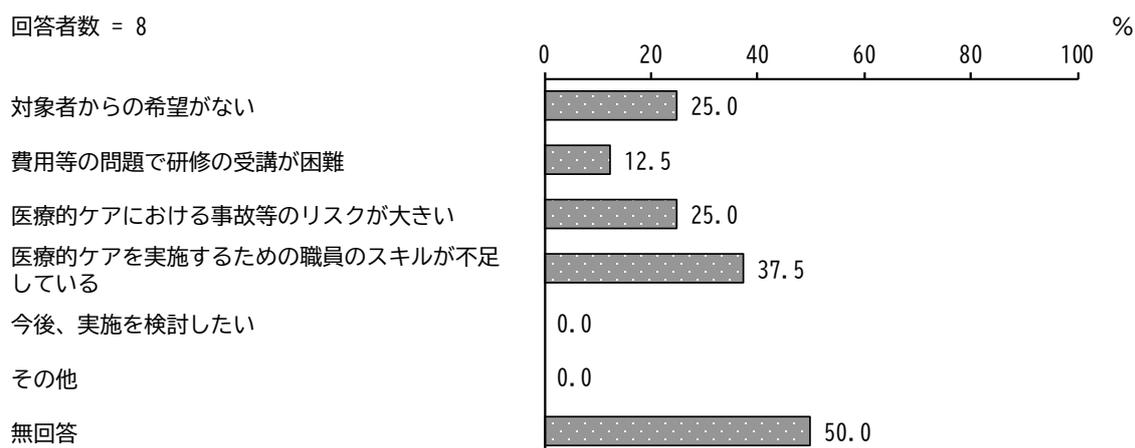
回答者数 = 21



3. 同行援護

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が3件、「対象者からの希望がない」、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」が2件となっています。

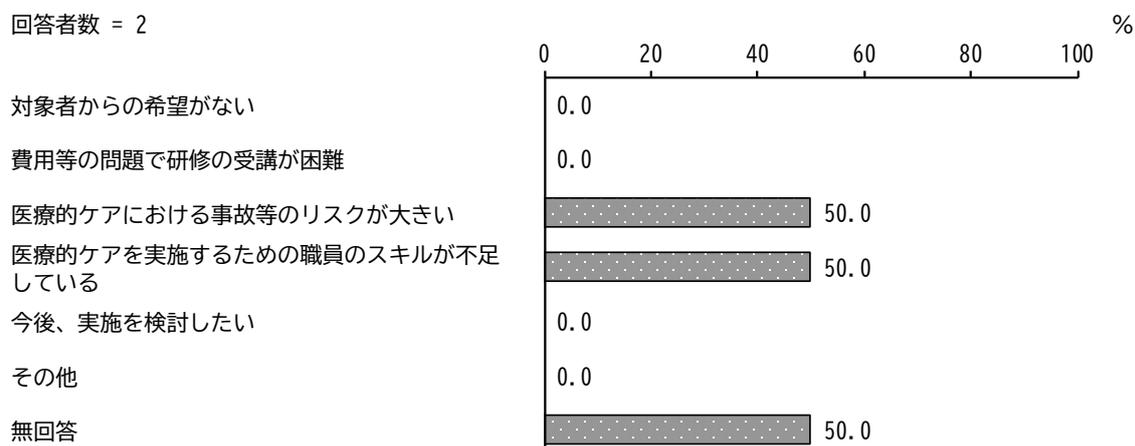
回答者数 = 8



4. 行動援護

「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が1件となっています。

回答者数 = 2



事業所

5. 重度障害者等包括支援

有効回答がありませんでした。

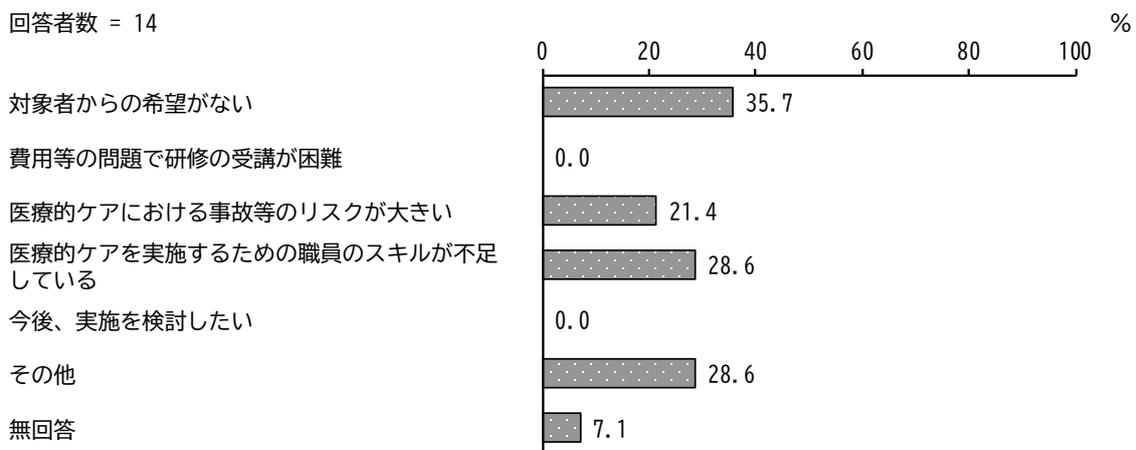
6. 療養介護

有効回答がありませんでした。

7. 生活介護

「対象者からの希望がない」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が 28.6%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合が 21.4%となっています。

回答者数 = 14



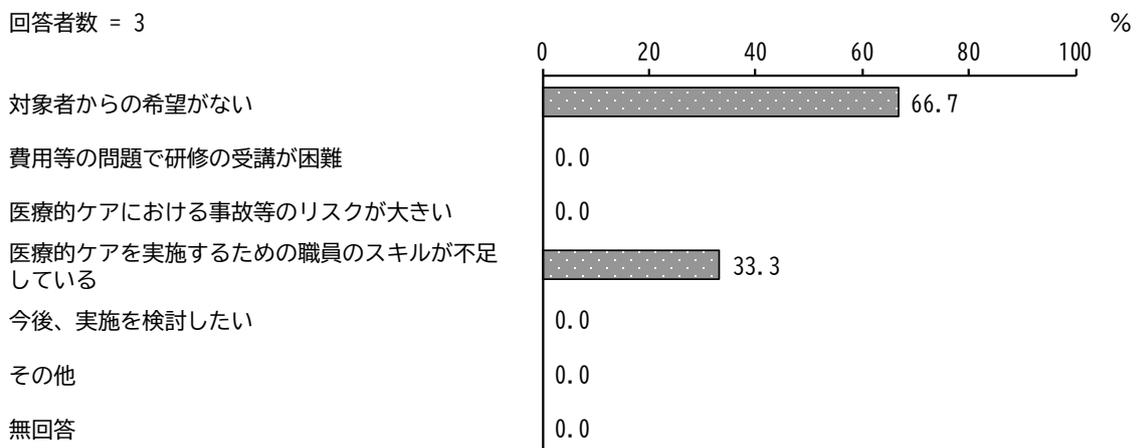
8. 自立訓練（機能訓練）

有効回答がありませんでした。

9. 自立訓練（生活訓練）

「対象者からの希望がない」が2件、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が1件となっています。

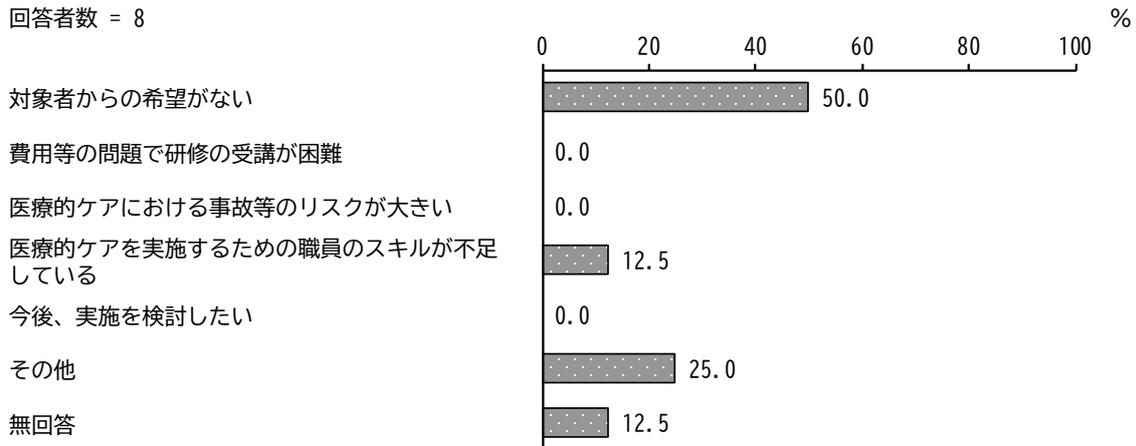
回答者数 = 3



10. 就労移行支援

「対象者からの希望がない」が4件、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が1件となっています。

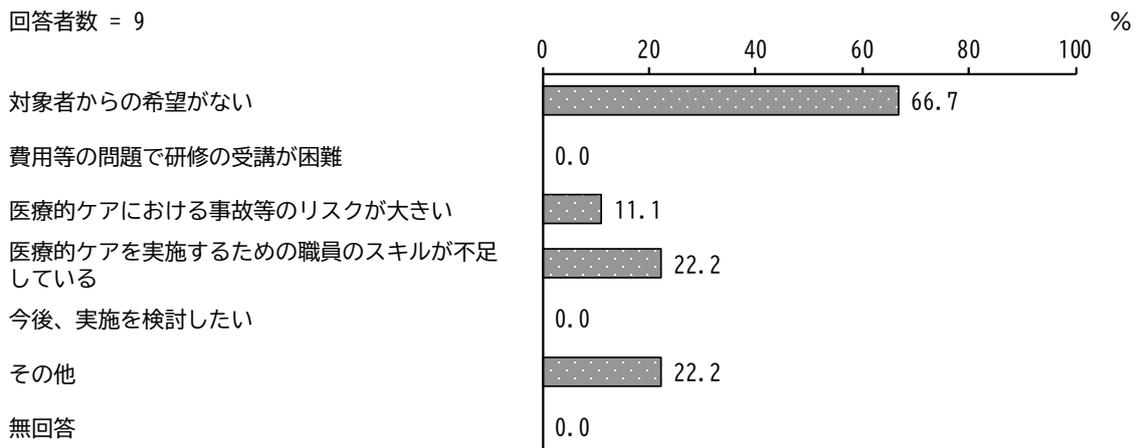
回答者数 = 8



11. 就労継続支援（A型）

「対象者からの希望がない」が6件、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が2件、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」が1件となっています。

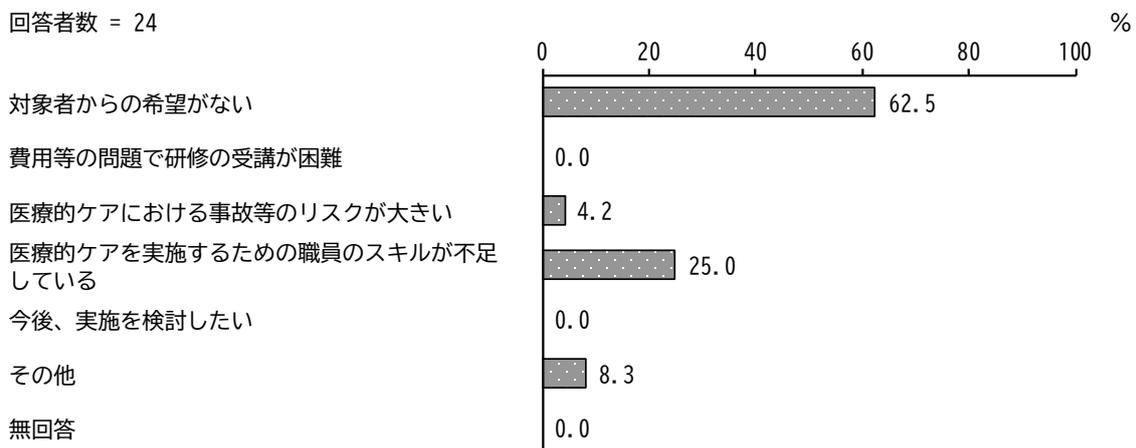
回答者数 = 9



12. 就労継続支援（B型）

「対象者からの希望がない」の割合が62.5%と最も高く、次いで「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が25.0%となっています。

回答者数 = 24

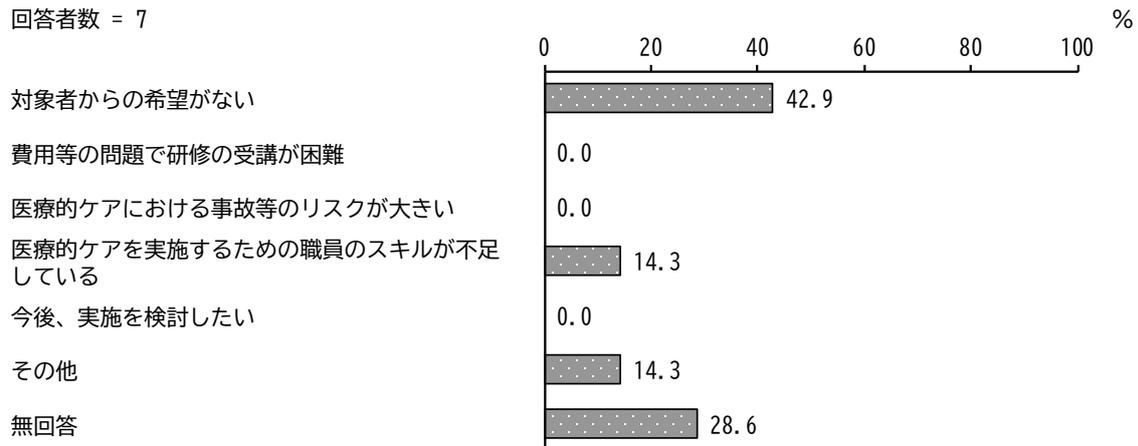


事業所

13. 就労定着支援

「対象者からの希望がない」が3件、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が1件となっています。

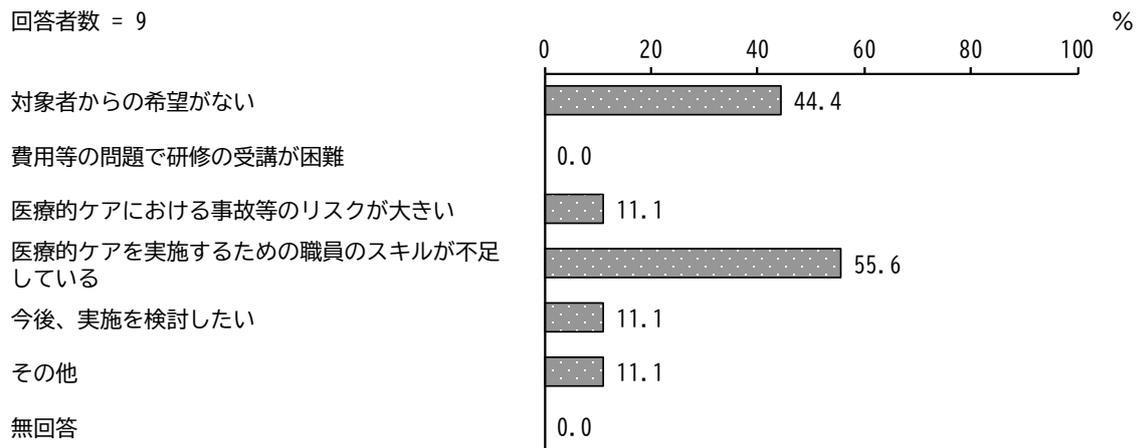
回答者数 = 7



14. 短期入所（ショートステイ）

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が5件、「対象者からの希望がない」が4件、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」、「今後、実施を検討したい」が1件となっています。

回答者数 = 9

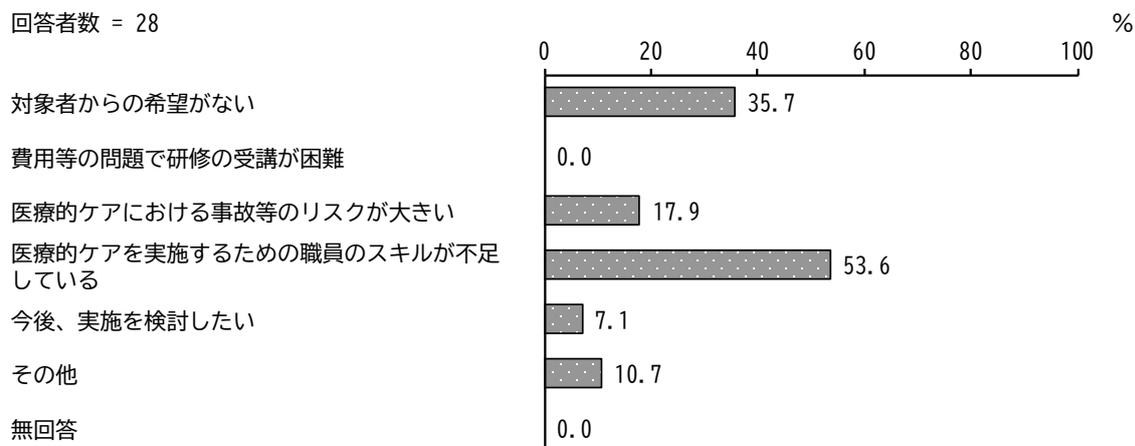


15. 施設入所支援

有効回答がありませんでした。

16. 共同生活援助（グループホーム）

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「対象者からの希望がない」の割合が 35.7%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合が 17.9%となっています。

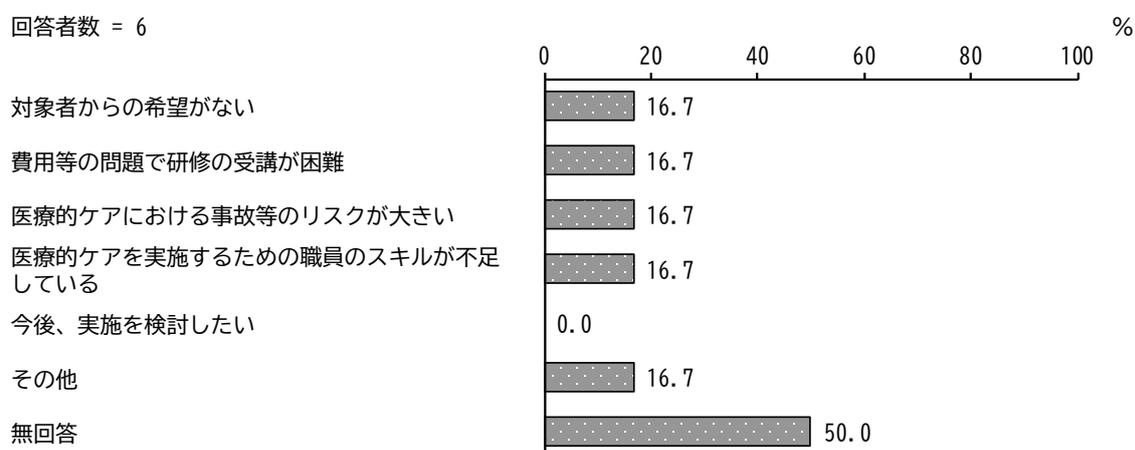


17. 自立生活援助

有効回答がありませんでした。

18. 計画相談支援

「対象者からの希望がない」、「費用等の問題で研修の受講が困難」、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が 1 件となっています。



19. 地域移行・地域定着支援

有効回答がありませんでした。

20. 訪問入浴サービス

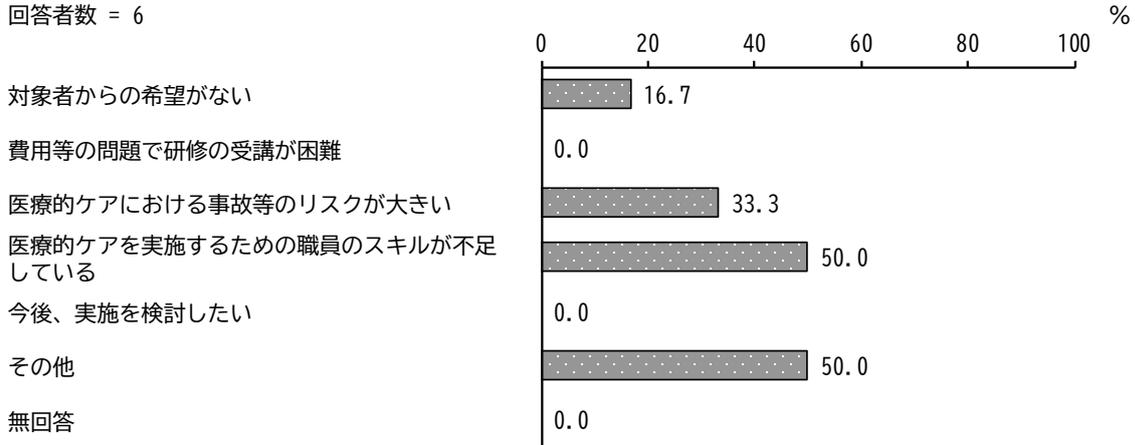
有効回答がありませんでした。

事業所

21. 日中一時支援

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が3件、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」が2件、「対象者からの希望がない」が1件となっています。

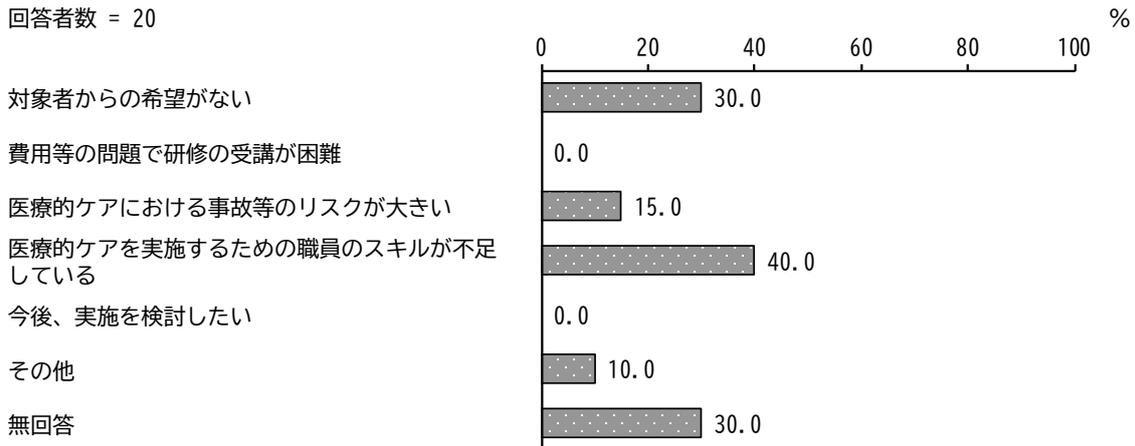
回答者数 = 6



22. 移動支援

「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が40.0%と最も高く、次いで「対象者からの希望がない」の割合が30.0%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合が15.0%となっています。

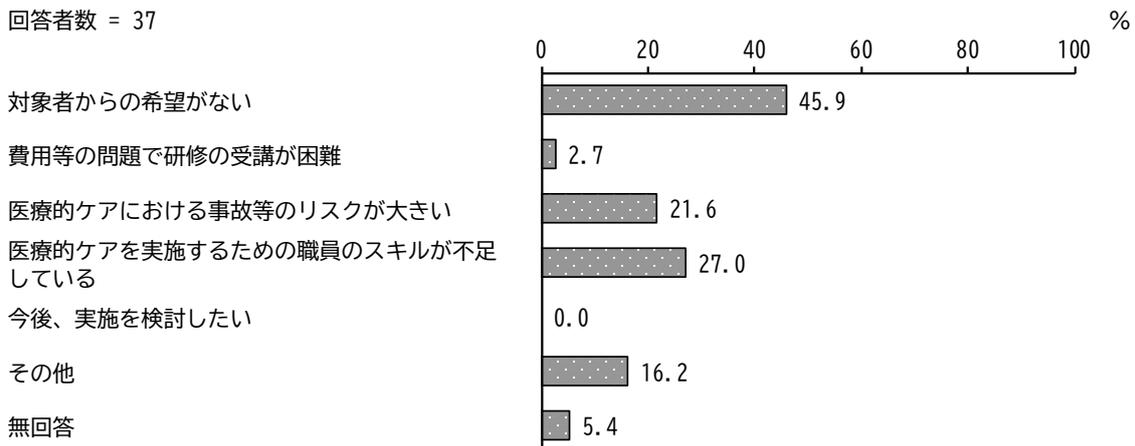
回答者数 = 20



23. 児童発達支援

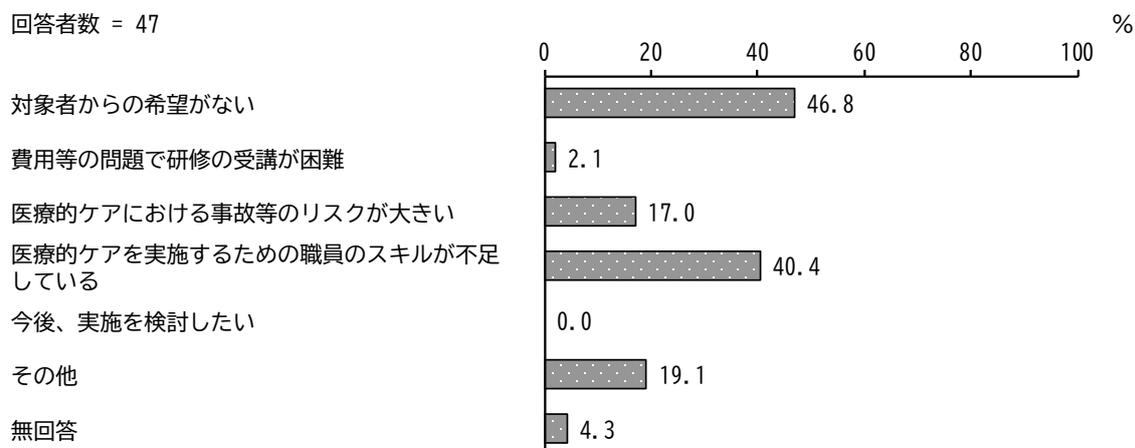
「対象者からの希望がない」の割合が45.9%と最も高く、次いで「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が27.0%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合が21.6%となっています。

回答者数 = 37



24. 放課後等デイサービス

「対象者からの希望がない」の割合が46.8%と最も高く、次いで「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」の割合が40.4%、「医療的ケアにおける事故等のリスクが大きい」の割合が17.0%となっています。

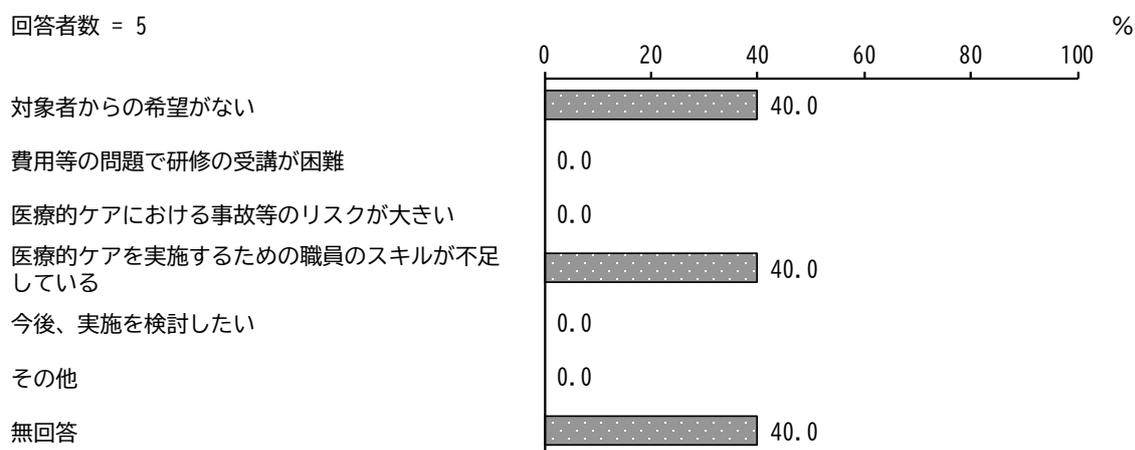


25. 居宅訪問型児童発達支援

有効回答がありませんでした。

26. 保育所等訪問支援

「対象者からの希望がない」、「医療的ケアを実施するための職員のスキルが不足している」が2件となっています。

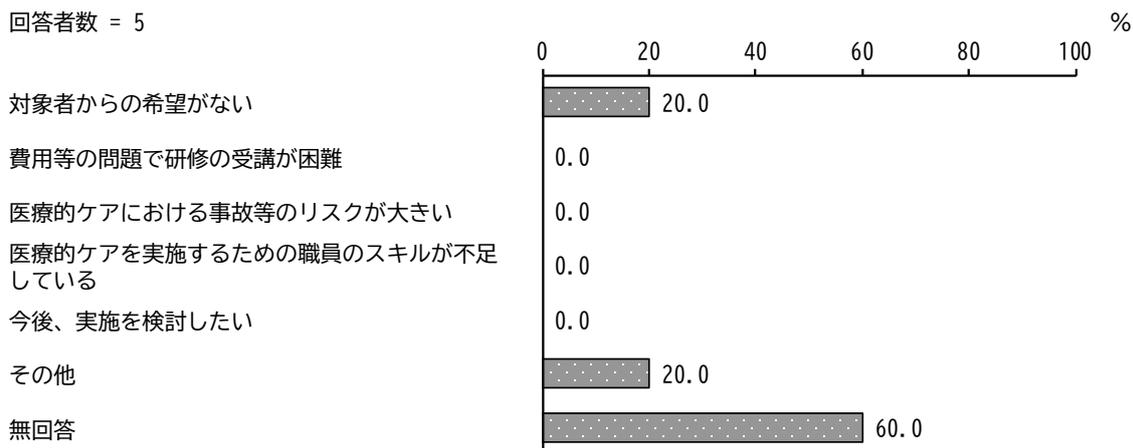


事業所

27. 障害児相談支援

「対象者からの希望がない」が1件となっています。

回答者数 = 5



28. 障害児入所支援

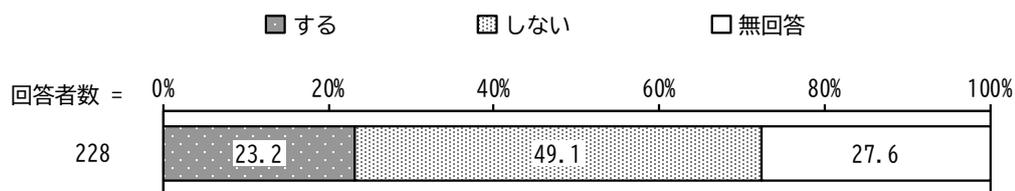
有効回答がありませんでした。

29. その他

有効回答がありませんでした。

問 33 利用者からの希望があれば実施を検討しますか。(どちらかに○)

「する」の割合が23.2%、「しない」の割合が49.1%となっています。

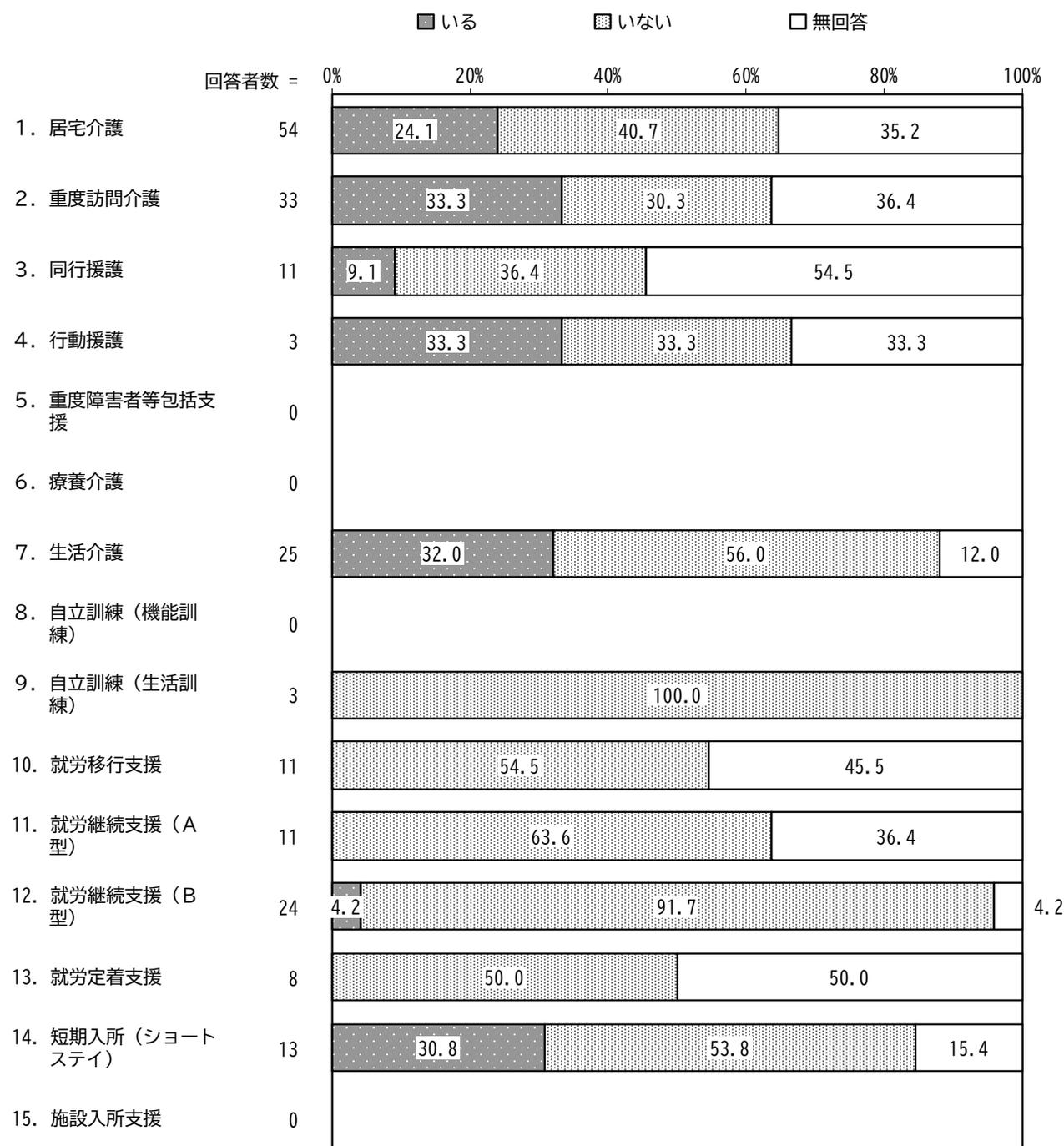


(8) 職員（医療従事者除く）による医療的ケアの実施について

問 34 貴事業所において、医療的ケアを実施できる職員（医療従事者除く）がいますか。いる場合はその人数についてお答えください。（1つに○）

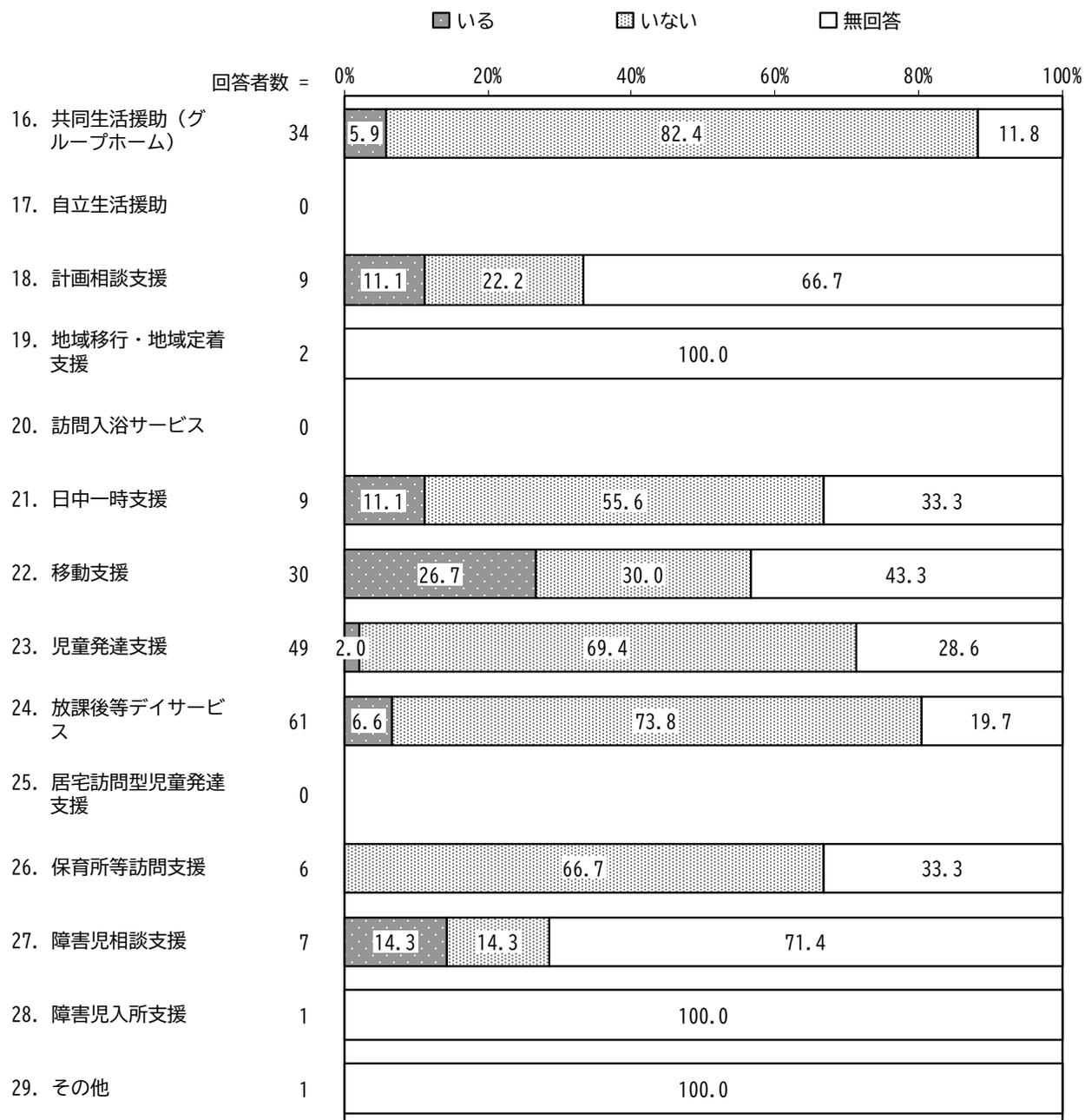
医療的ケアを実施できる職員（医療従事者除く）の有無

『2. 重度訪問介護』『4. 行動援護』で「いる」が、『9. 自立訓練（生活訓練）』で「いない」が高くなっています。



（次ページへ続く）

事業所



（医療的ケアを実施できる職員（医療従事者除く）の有無 続き）

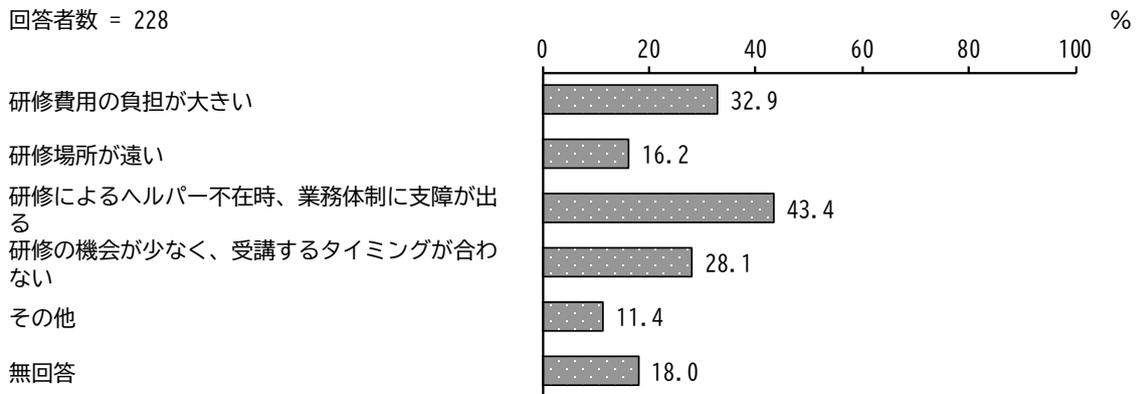
『居宅介護』で「第1号不特定」、「第2号不特定」の人数が、『重度訪問介護』で「第3号不特定」の人数が多くなっています。

サービス名	第1号不特定	第2号不特定	第3号不特定	合計
居宅介護	33人	24人	22人	79人
重度訪問介護	8人	2人	33人	43人
同行援護	3人	0人	1人	4人
行動援護	0人	0人	1人	1人
重度障害者等包括支援	0人	0人	0人	0人
療養介護	0人	0人	0人	0人
生活介護	6人	3人	22人	31人
自立訓練（機能訓練）	0人	0人	0人	0人
自立訓練（生活訓練）	0人	0人	0人	0人
就労移行支援	0人	0人	0人	0人
就労継続支援（A型）	0人	0人	0人	0人
就労継続支援（B型）	1人	0人	0人	1人
就労定着支援	0人	0人	0人	0人
短期入所（ショートステイ）	2人	0人	6人	8人
施設入所支援	0人	0人	0人	0人
共同生活援助（グループホーム）	0人	0人	6人	6人
自立生活援助	0人	0人	0人	0人
計画相談支援	0人	0人	1人	1人
地域移行・地域定着支援	0人	0人	0人	0人
訪問入浴サービス	0人	0人	0人	0人
日中一時支援	0人	0人	1人	1人
移動支援	6人	1人	13人	20人
児童発達支援	2人	1人	0人	3人
放課後等デイサービス	2人	2人	4人	8人
居宅訪問型児童発達支援	0人	0人	0人	0人
保育所等訪問支援	0人	0人	0人	0人
障害児相談支援	0人	0人	1人	1人
障害児入所支援	0人	0人	0人	0人
その他	0人	0人	0人	0人

問 35 研修を受講する際、課題となることについてお答え下さい。

「研修によるヘルパー不在時、業務体制に支障が出る」の割合が 43.4%と最も高く、次いで「研修費用の負担が大きい」の割合が 32.9%、「研修の機会が少なく、受講するタイミングが合わない」の割合が 28.1%となっています。

回答者数 = 228



(主なその他意見)

- ・現状の仕事量でキャパオーバー。
- ・研修の時間帯が利用者にサービス提供している時間とかぶっている。
- ・事業内容と相違がある為。
- ・医療的ケア児者の受入れに対するリスクの大きさを考え、研修に消極的。
- ・実施していないため課題の抽出が出来ない。
- ・施設体制が整っていない。
- ・検討したことがない。

(9) 医療的ケア児者への支援に関するリスク・不安の軽減について

問 36 医療的ケア児者支援に関するリスク・不安を軽減するために、どのような支援が必要か、ご意見をご記入下さい。

「研修・スキル向上」、「医療専門職の配置・連携」が19件と多くなっています。

分類回答	件数
1. 研修・スキル向上	19
2. 医療専門職の配置・連携	19
3. 施設・人員環境整備	8
4. 緊急対応・相談体制	7
5. 経済的支援・報酬改善	6
6. リスク管理・法整備	9

※記述意見のため、アフターコーディングを行い、件数ごとに集計しました。

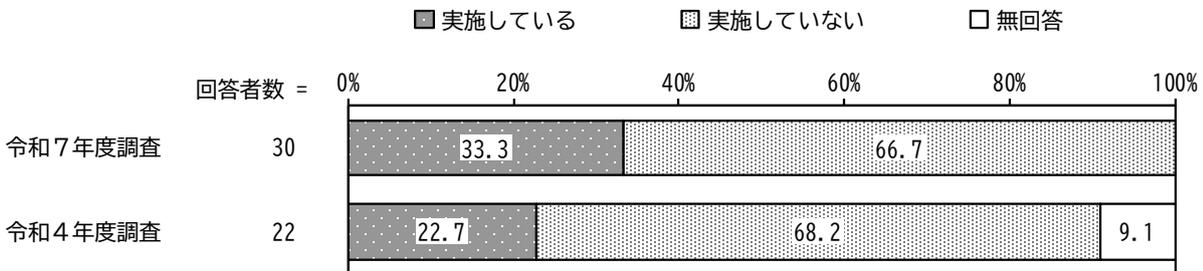
事業所

(10) 医療的ケア児者の相談支援について

【問 37～42 は相談支援事業所のみご回答ください】

問 37 現在、医療的ケア児者の相談支援を実施していますか。(1つに○)

「実施している」の割合が33.3%、「実施していない」の割合が66.7%となっています。
令和7年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。



問 38 医療的ケア児者の計画相談を受けたことのある相談支援専門員の人数と、医療的ケア児者のサービス等利用計画作成数をお答えください。(令和7年4月1日現在)

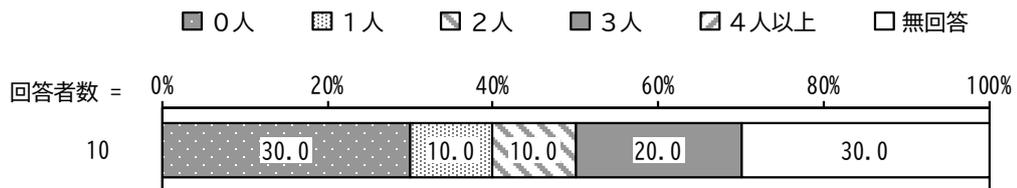
医療的ケア児者の計画相談を受けたことのある相談支援専門員人数

「0人」の割合が30.0%と最も高く、次いで「2人」の割合が20.0%、「1人」、「3人」の割合が10.0%となっています。



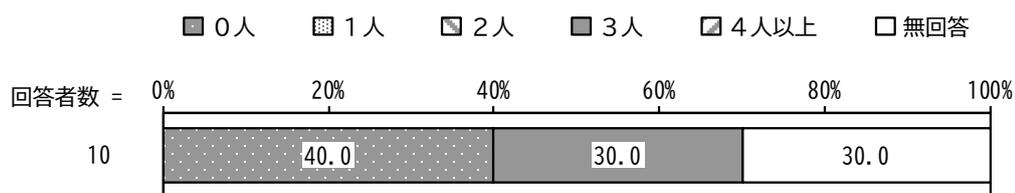
医療的ケア児者のサービス等利用計画作成人数

「0人」の割合が30.0%と最も高く、次いで「3人」の割合が20.0%、「1人」、「2人」の割合が10.0%となっています。



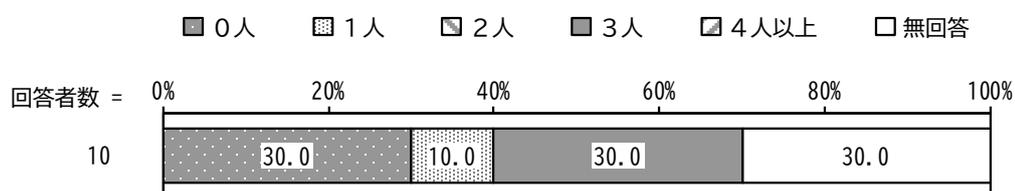
【内訳】 0歳から就学前

「0人」の割合が40.0%と最も高く、次いで「3人」の割合が30.0%となっています。



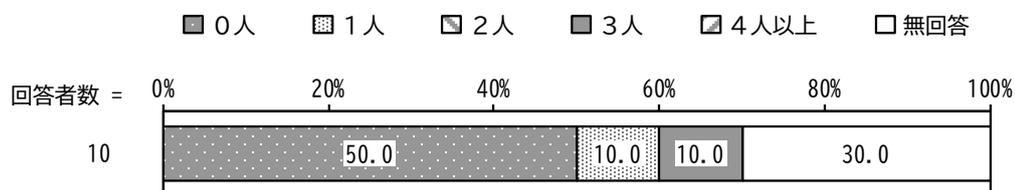
【内訳】 就学後～18歳未満

「0人」、「3人」の割合が30.0%と最も高くなっています。



【内訳】 18歳以上～20歳未満

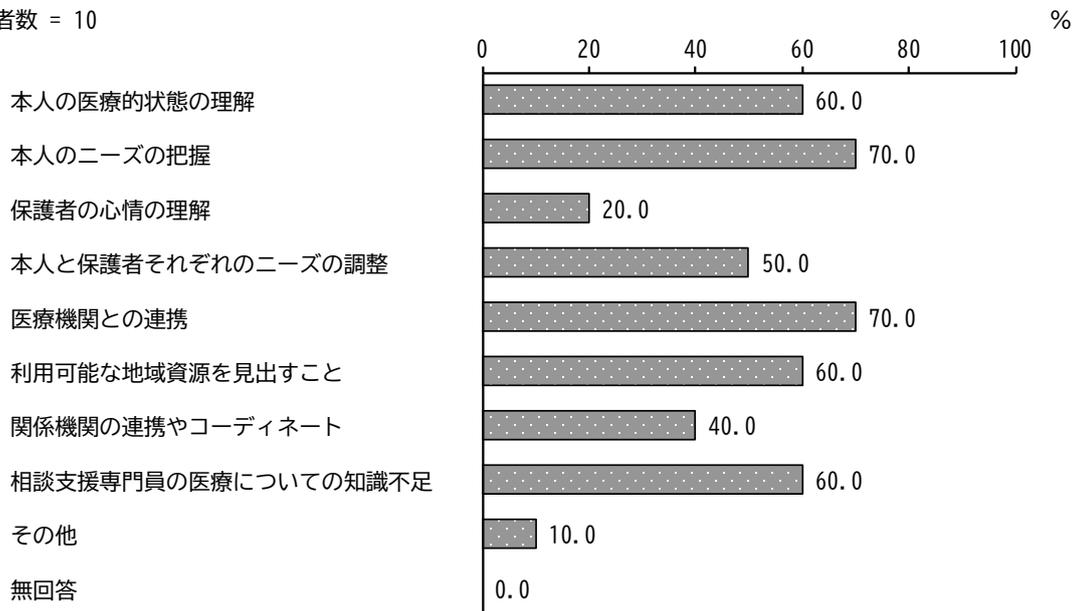
「0人」の割合が50.0%と最も高く、次いで「1人」、「3人」の割合が10.0%となっています。



問 39 計画作成にあたって困難に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「本人のニーズの把握」、「医療機関との連携」の割合が 70.0%と最も高く、次いで「本人の医療的状態の理解」、「利用可能な地域資源を見出すこと」、「相談支援専門員の医療についての知識不足」の割合が 60.0%となっています。

回答者数 = 10



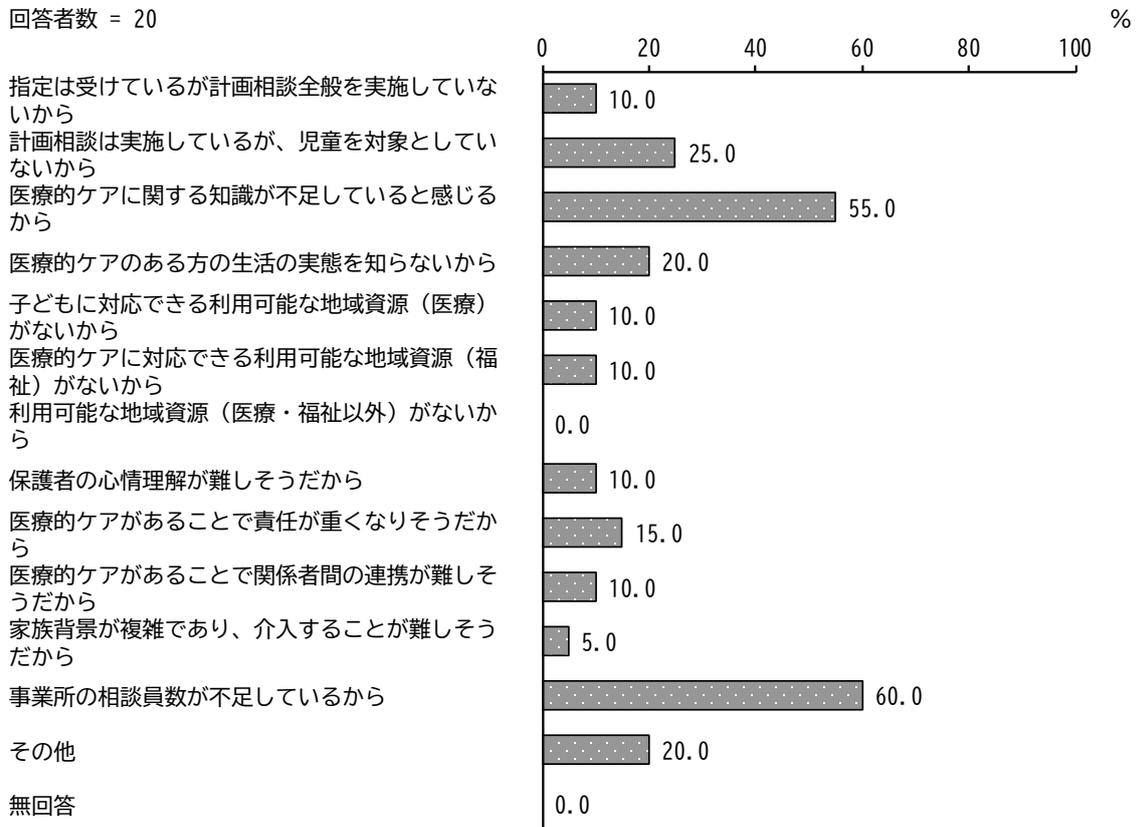
(主なその他意見)

- ・ 支援の中心は訪看なので相談員が担う部分が少なく、その必要性を感じない。
- ・ 利用者に医療的ケアが必要な人がいないから。
- ・ ニーズを感じないから。
- ・ 医療的ケアを必要とする児童が利用していない為。
- ・ 発達障害に特化して相談支援を行っているため。

問 40 実施していない理由としてあてはまるものをお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

「事業所の相談員数が不足しているから」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「医療的ケアに関する知識が不足していると感じるから」の割合が 55.0%、「計画相談は実施しているが、児童を対象としていないから」の割合が 25.0%となっています。

回答者数 = 20



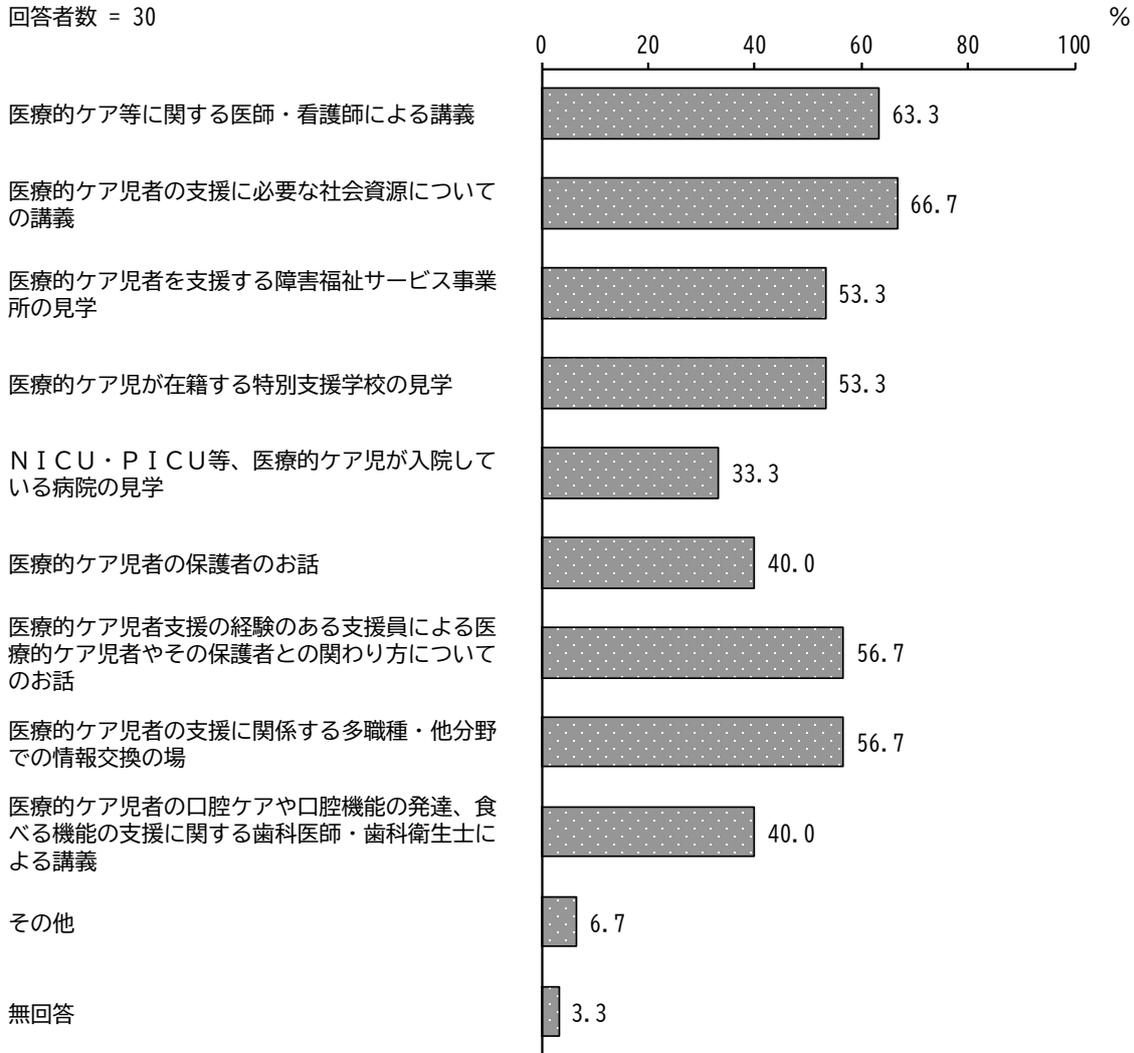
(主なその他意見)

- ・現状の仕事量で手いっぱい。
- ・ケアマネ兼務。介護と兼務の状況で時間がない為。
- ・会社の方向性を確認する必要がある。
- ・事業形態上関わりがない。
- ・医療的ケアの必要な利用者がいないため。
- ・民間の相談員へ振られないため、経験値が上がらない。

問 41 医療的ケア児者の計画相談の実施を推進するにあたって、どのような研修が必要だと思いますか。また、どのようなことを学びたいですか。(あてはまるものすべてに○)

「医療的ケア児者の支援に必要な社会資源についての講義」の割合が66.7%と最も高く、次いで「医療的ケア等に関する医師・看護師による講義」の割合が63.3%、「医療的ケア児者支援の経験のある支援員による医療的ケア児者やその保護者との関わり方についてのお話」、「医療的ケア児者の支援に係る多職種・他分野での情報交換の場」の割合が56.7%となっています。

回答者数 = 30



問 42 相談支援専門員向けの医療的ケア児者への支援に関する研修についてご意見があれば自由にご記入ください。

- ・ 相談支援専門員の中でも児童の相談支援を行っている事業所が少なく特定の事業所に限られている。医ケア児に限らず児童の相談支援を行う事業所を増やすことも必要ではないか。
- ・ 相談支援事業所の充実、実働する相談支援従事者の確保。
- ・ 障害者に対する施設利用も含めた公共サービスの優遇
- ・ 三郷市のインター南公園のような、インクルーシブ公園の整備をお願いしたい。
- ・ 松戸市地域自立支援協議会を機能させる。
- ・ 事業者や支援者に対する業務軽減・国、県、市の障害福祉サービスの全般的な規定規則ルール統一化・報酬改善・通院援助・児童生徒の教育方針の見直し。
- ・ 短期入所・日中一時・相談支援事業所数を増やす、通学に関する支援の充実。
- ・ 運営や金銭面でのことに関して、透明性が高く意見交換ができる場の創出。

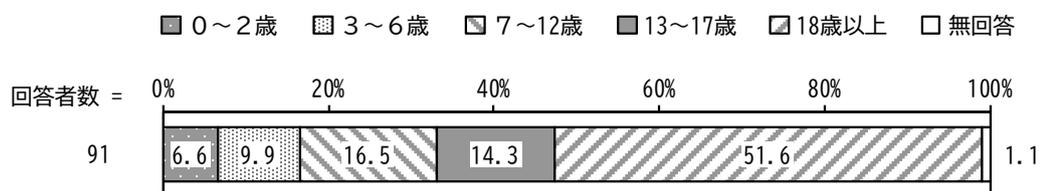
医療的ケア児

4 医療的ケア児（者）実態・ニーズ調査

(1) 医療的ケアが必要な方について

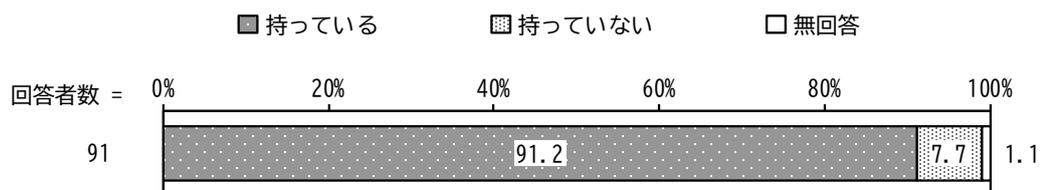
問1 ご本人の年齢を教えてください。*令和7年7月15日現在

「18歳以上」の割合が51.6%と最も高く、次いで「7～12歳」の割合が16.5%、「13～17歳」の割合が14.3%となっています。



問2 身体障害者手帳を持っていますか。(どちらかに○)

「持っている」の割合が91.2%、「持っていない」の割合が7.7%となっています。



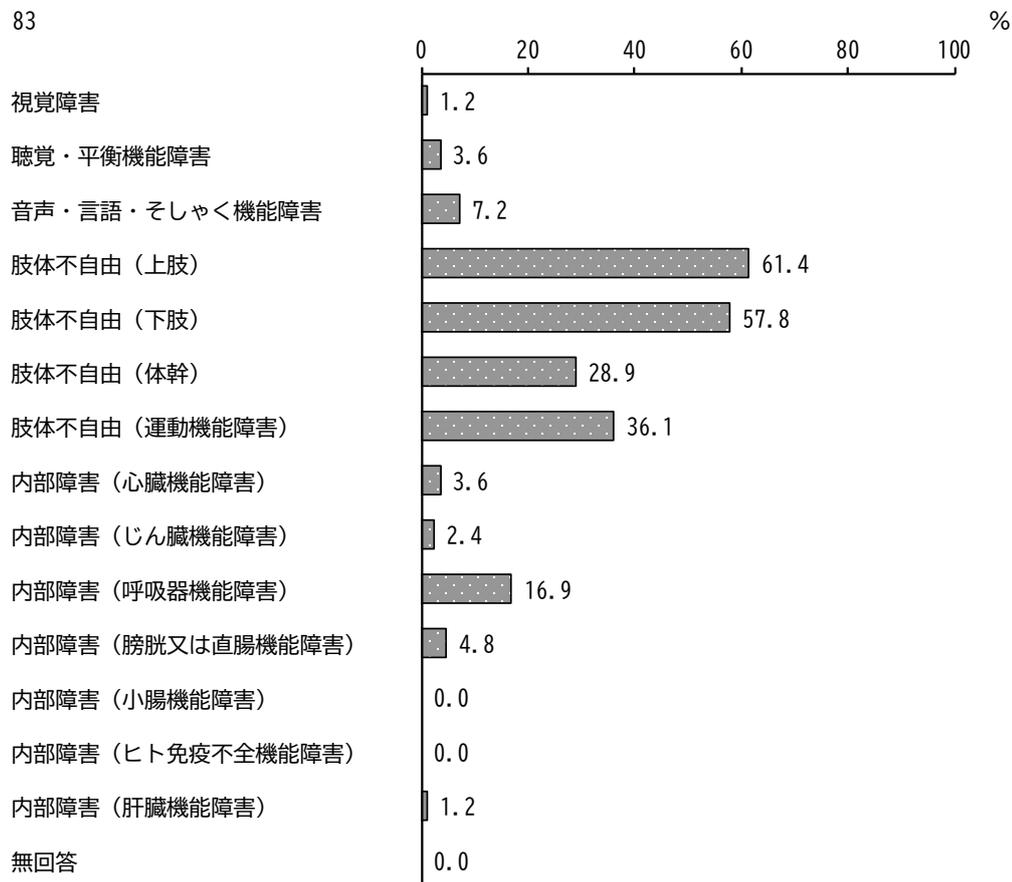
問2で「持っている」と答えた方にお聞きします

問3 障害の種類及びそれぞれの等級について、お答えください
(あてはまるものすべてに○)

種類

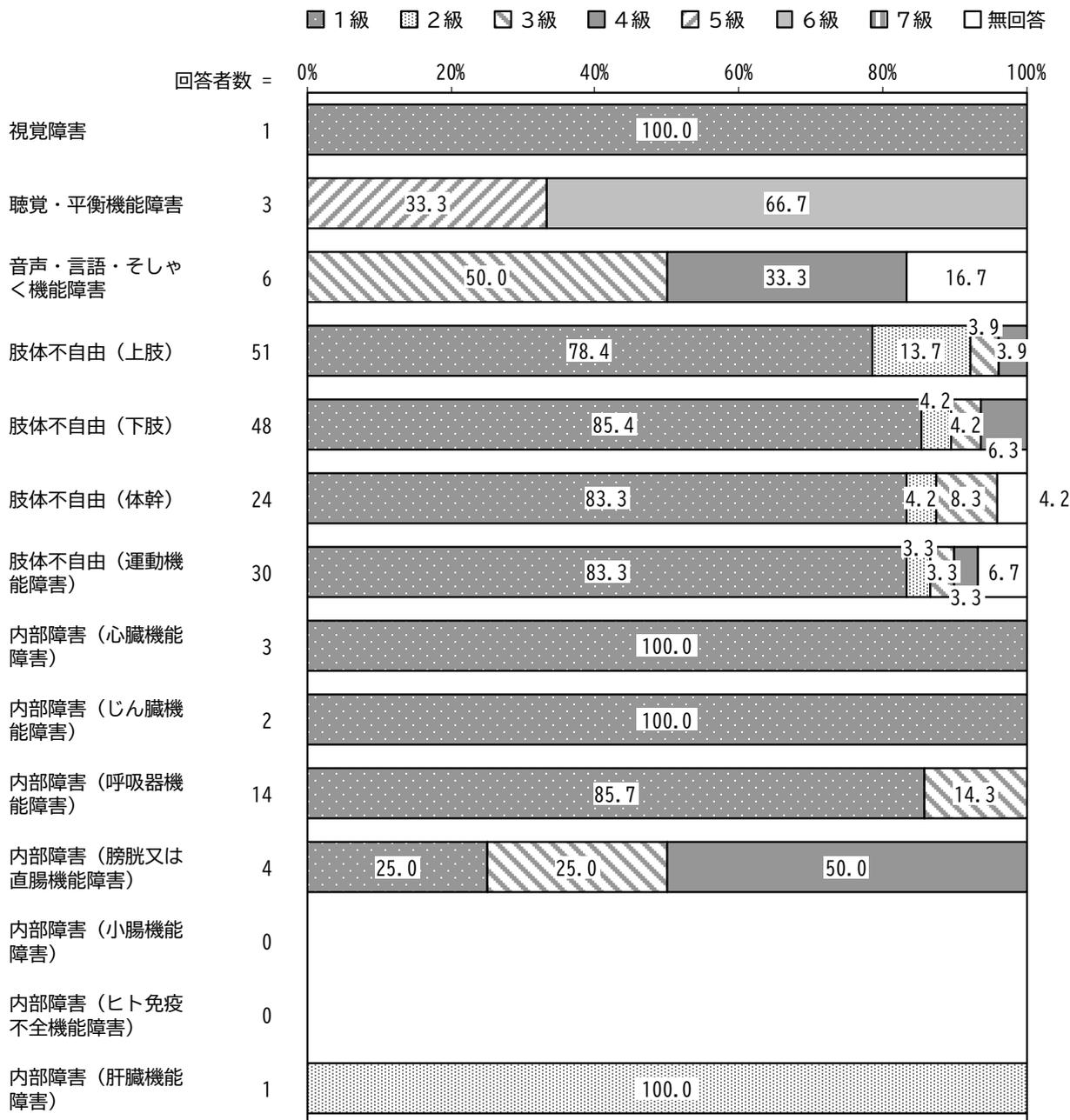
「肢体不自由（上肢）」の割合が61.4%と最も高く、次いで「肢体不自由（下肢）」の割合が57.8%、「肢体不自由（運動機能障害）」の割合が36.1%となっています。

回答者数 = 83



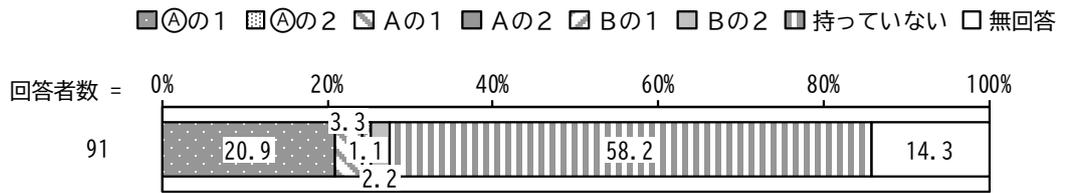
等級

『内部障害（呼吸器機能障害）』で「1級」の割合が、『肢体不自由（上肢）』で「2級」の割合が高くなっています。また、『内部障害（呼吸器機能障害）』では「3級」の割合も高くなっています。



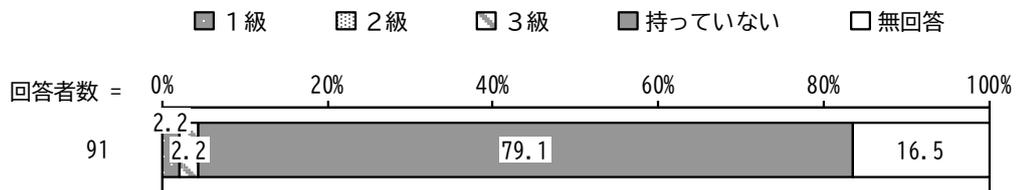
問4 お持ちの療育手帳の等級について、お答えください。(1つに○)

「持っていない」の割合が58.2%と最も高く、次いで「㊤の1」の割合が20.9%となっています。



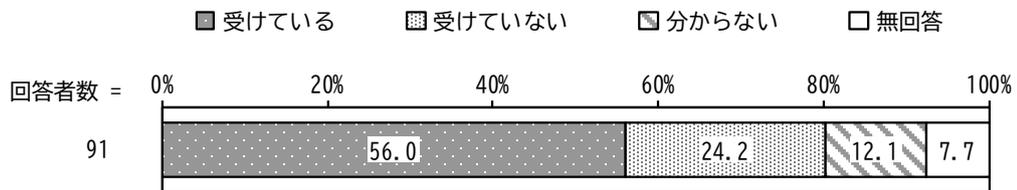
問5 お持ちの精神障害者保健福祉手帳の等級について、お答えください。(1つに○)

「持っていない」の割合が79.1%と最も高くなっています。



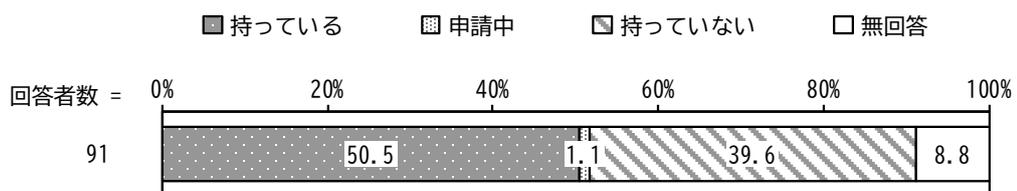
問6 重症心身障害児者の認定を受けていますか。(1つに○)

「受けている」の割合が56.0%、「受けていない」の割合が24.2%となっています。



問7 小児慢性特定疾病医療受給者証をお持ちですか。(1つに○)

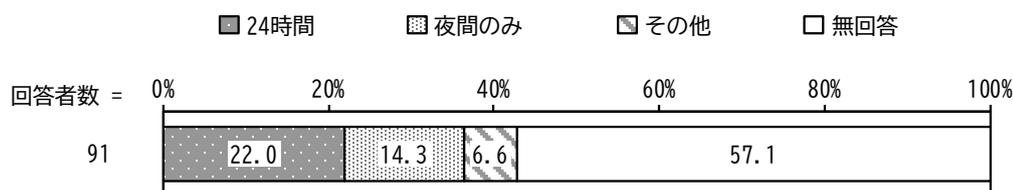
「持っている」の割合が50.5%、「申請中」の割合が1.1%、「持っていない」の割合が39.6%となっています。



問8 必要とする医療的ケアについて、お答えください。(それぞれ1つに○)

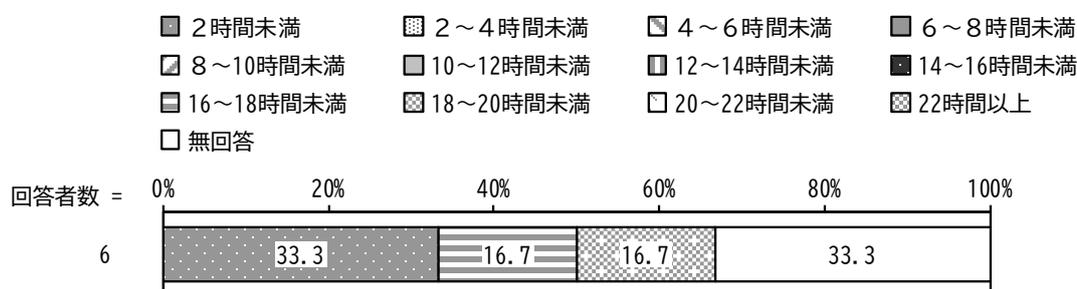
1) 人工呼吸器管理

「24時間」の割合が22.0%、「夜間のみ」の割合が14.3%となっています。



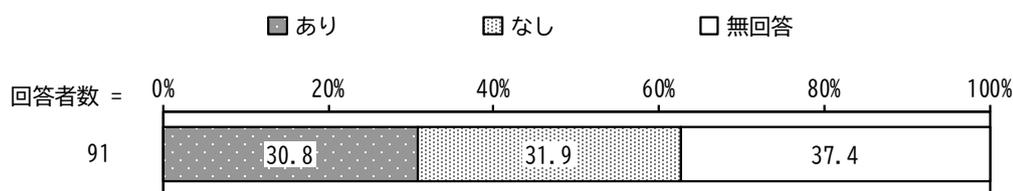
1) - 1 1日あたりの使用時間(人工呼吸器管理)

「2時間未満」が2件、「16～18時間未満」、「18～20時間未満」が1件となっています。



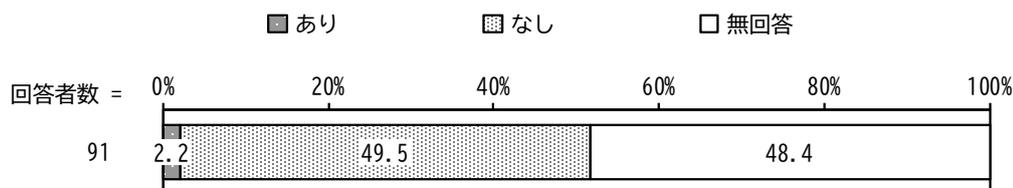
2) 気管内挿管、気管切開の管理

「あり」の割合が30.8%、「なし」の割合が31.9%となっています。



3) 鼻咽頭エアウェイの管理

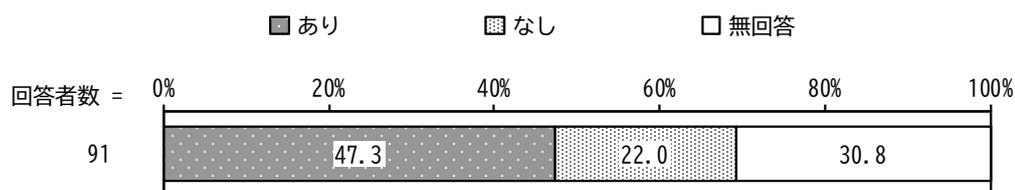
「あり」の割合が2.2%、「なし」の割合が49.5%となっています。



医療的ケア児

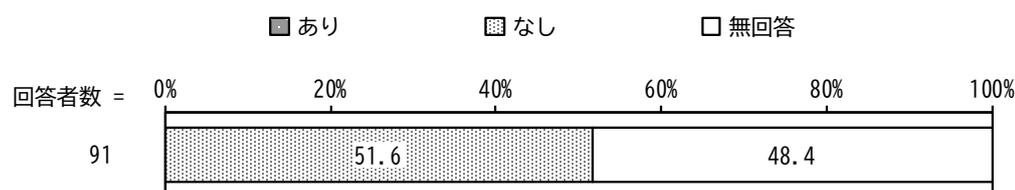
4) 鼻口腔吸引（口腔・鼻腔・気管内）

「あり」の割合が47.3%、「なし」の割合が22.0%となっています。



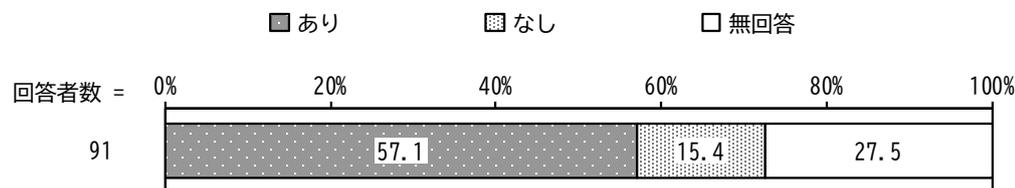
5) 中心静脈栄養

「なし」の割合が51.6%となっています。



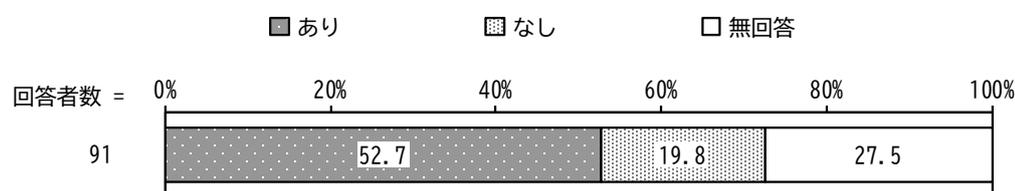
6) 酸素吸入・ネブライザーの管理

「あり」の割合が57.1%、「なし」の割合が15.4%となっています。



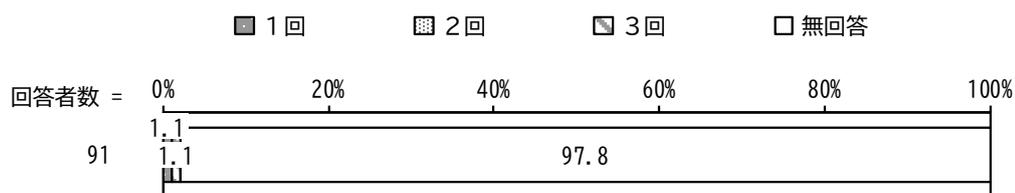
7) 経管栄養（経鼻・胃瘻・腸瘻等）

「あり」の割合が52.7%、「なし」の割合が19.8%となっています。



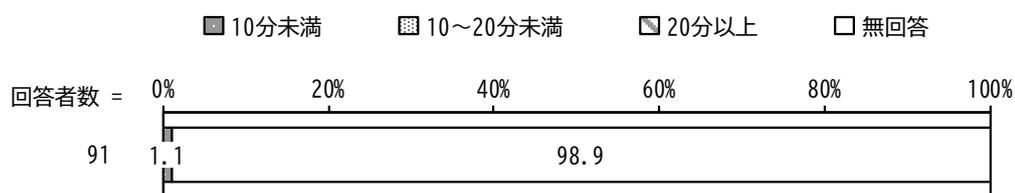
8) - 1 1日あたりの使用回数（血糖測定・皮下注射（インスリン注射等））

「1回」、「3回」の割合が1.1%と最も高くなっています。



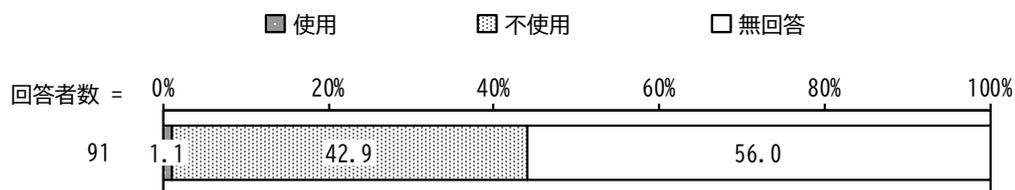
8) - 2 1回あたりの使用時間（血糖測定・皮下注射（インスリン注射等））

「10分未満」の割合が1.1%と最も高くなっています。



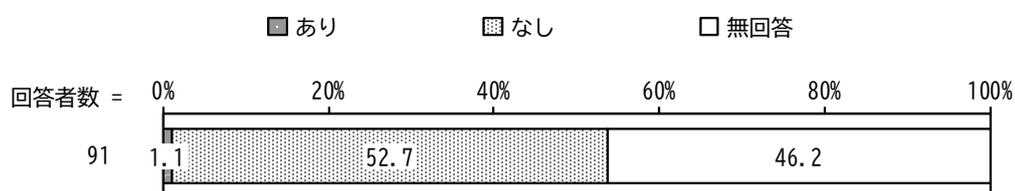
8) - 3 持続注入ポンプの使用（血糖測定・皮下注射（インスリン注射等））

「使用」の割合が1.1%、「不使用」の割合が42.9%となっています。



9) 継続的な透析（血液透析、腹膜透析を含む）

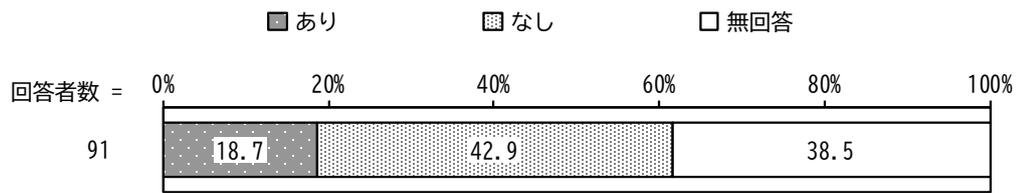
「あり」の割合が1.1%、「なし」の割合が52.7%となっています。



医療的ケア児

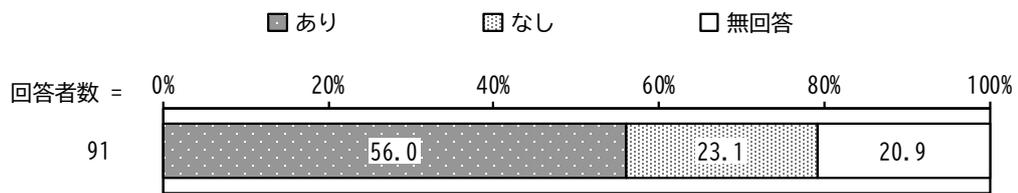
10) 導尿（尿道留置カテーテル、尿路ストーマ等を含む）

「あり」の割合が18.7%、「なし」の割合が42.9%となっています。



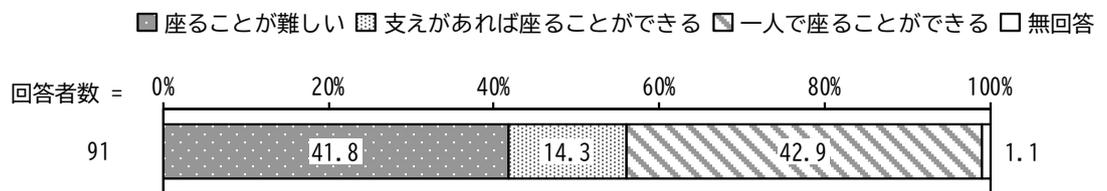
11) 排便管理（消化管ストーマ、摘便、浣腸等含む）

「あり」の割合が56.0%、「なし」の割合が23.1%となっています。



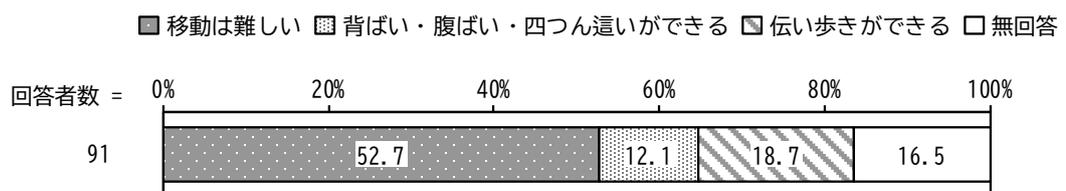
問9 姿勢の保持について教えてください。（1つに○）

「座ることが難しい」の割合が41.8%、「支えがあれば座ることができる」の割合が14.3%、「一人で座ることができる」の割合が42.9%となっています。



問10 一人での移動について教えてください。（1つに○）

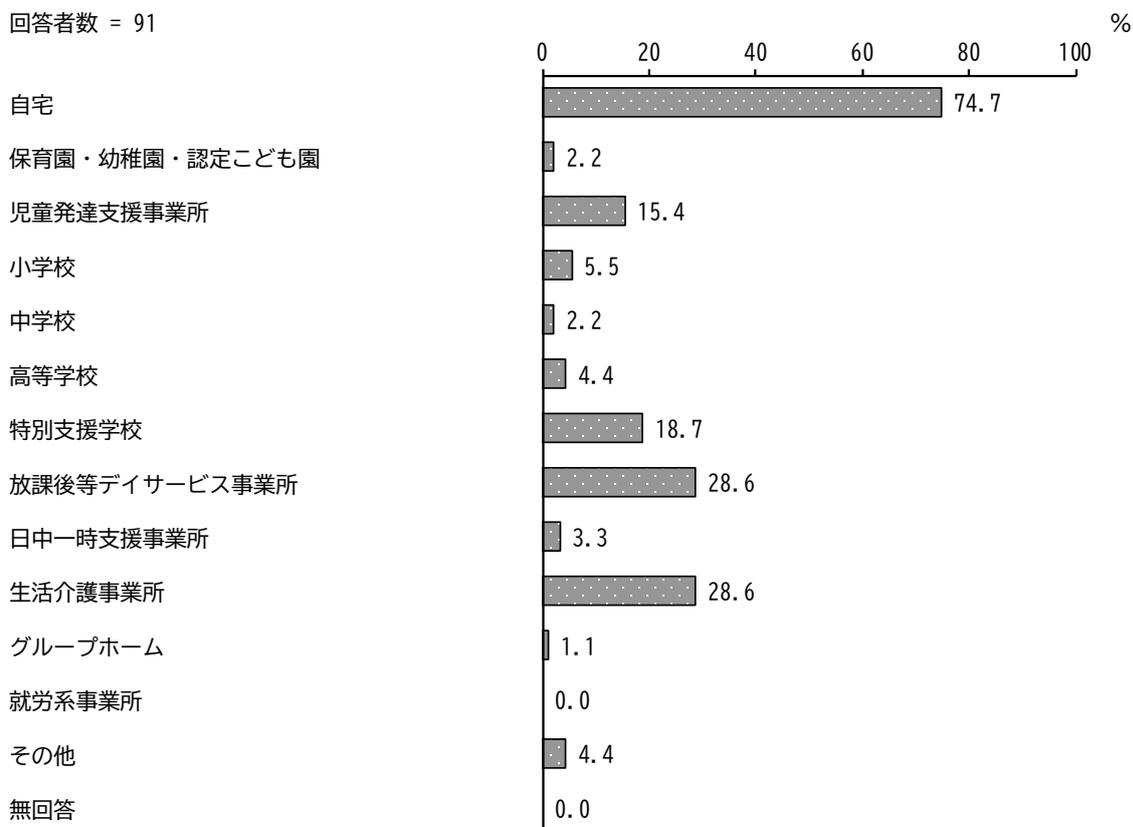
「移動は難しい」の割合が52.7%、「背ばい・腹ばい・四つん這いができる」の割合が12.1%、「伝い歩きができる」の割合が18.7%となっています。



問 11 日中の活動場所はどこですか。あてはまるものすべてに○)

「自宅」の割合が 74.7%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス事業所」、「生活介護事業所」の割合が 28.6%となっています。

回答者数 = 91

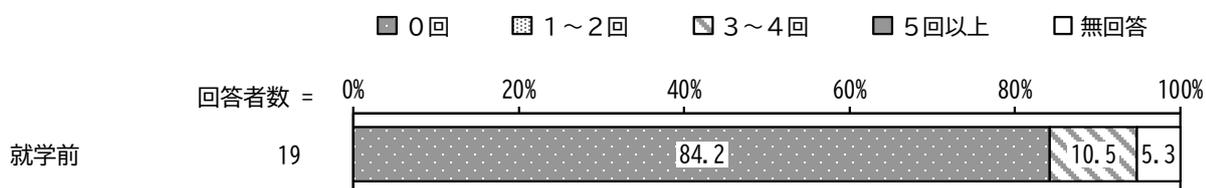


問 12 一週間あたりの各施設の利用回数について教えてください。

問 30 の選択肢「就学前」、「就学中」、「卒業」の回答区分に応じて結果をまとめています。

保育園・幼稚園・認定こども園

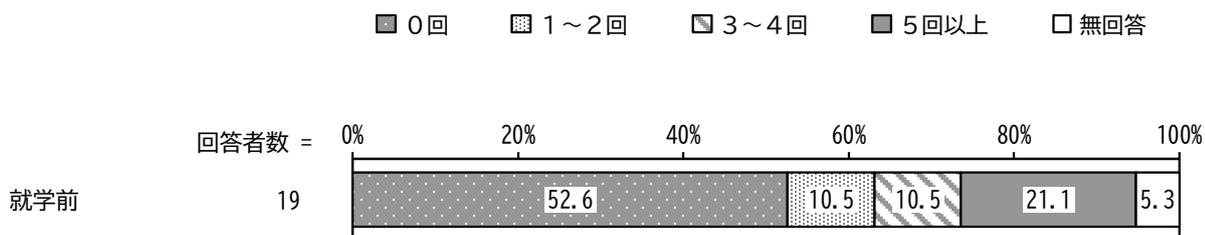
就学状況別にみると、就学前で「3～4回」の割合が 10.5%と高くなっています。



医療的ケア児

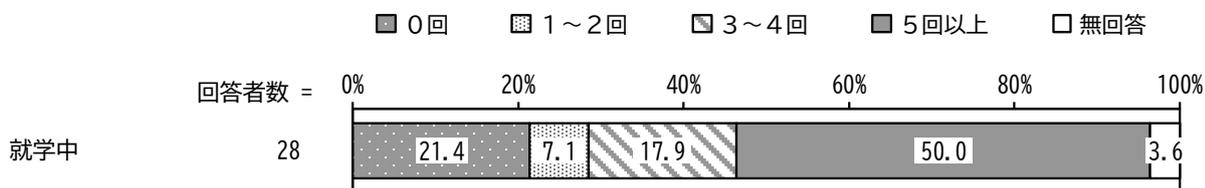
児童発達支援事業所

就学状況別にみると、就学前で「5回以上」の割合が21.1%と高くなっています。



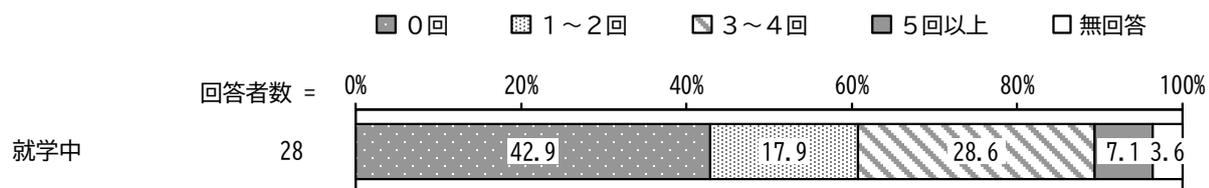
学校（訪問学級含む）

就学状況別にみると、就学中で「3～4回」の割合が17.9%と高くなっています。



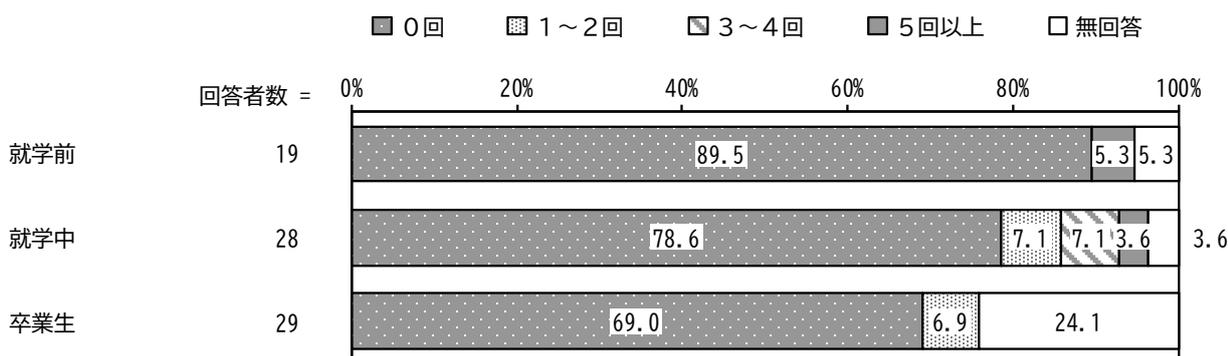
放課後等デイサービス事業所

就学状況別にみると、就学中で「3～4回」の割合が28.6%と高くなっています。



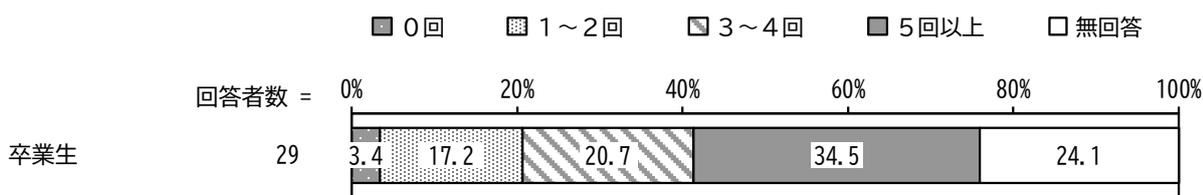
日中一時支援事業所

就学状況別にみると、就学中で「3～4回」の割合が7.1%と高くなっています。



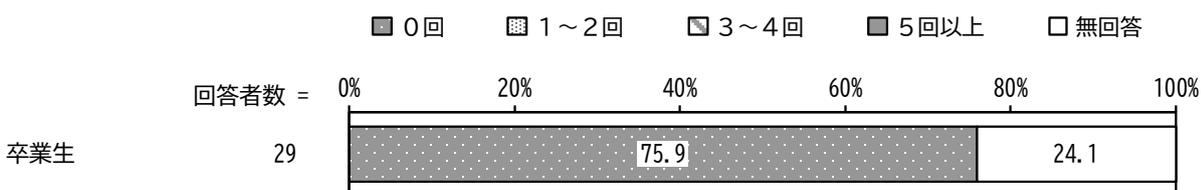
生活介護事業所

就学状況別にみると、卒業生で「5回以上」の割合が34.5%と高くなっています。



就労系事業所（就労継続、地域活動支援センター等）

就学状況別にみると、卒業生で「0回」の割合が75.9%と低くなっています。

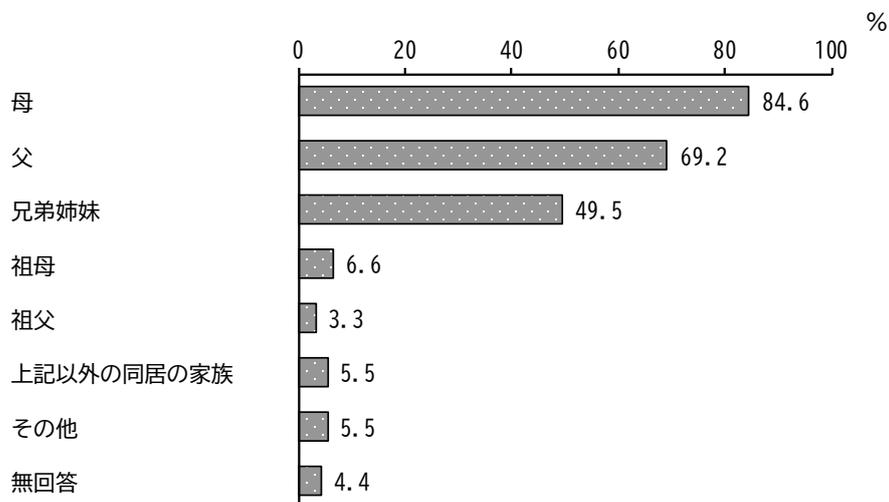


(2) ご家族について

問13 現在、ご本人と一緒に住んでいる方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が84.6%と最も高く、次いで「父」の割合が69.2%、「兄弟姉妹」の割合が49.5%となっています。

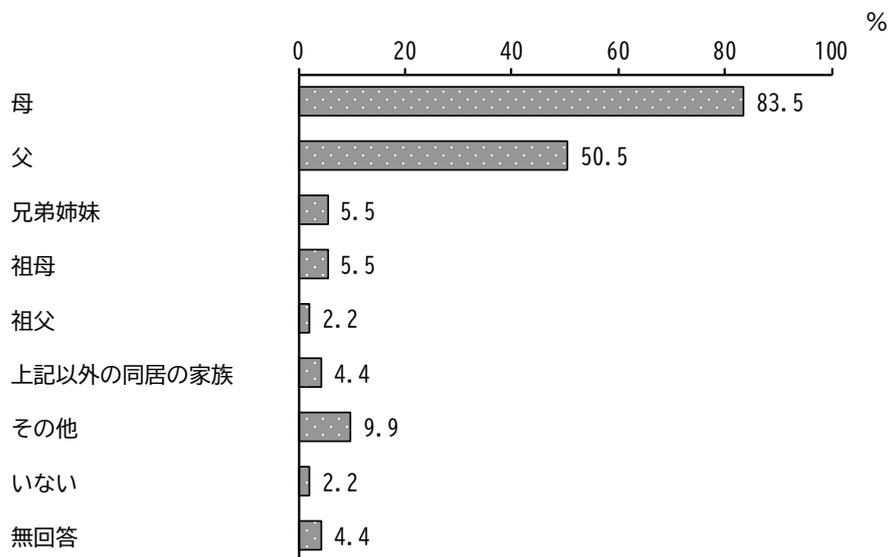
回答者数 = 91



問14 自宅で医療的ケアを行う方はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「母」の割合が83.5%と最も高く、次いで「父」の割合が50.5%となっています。

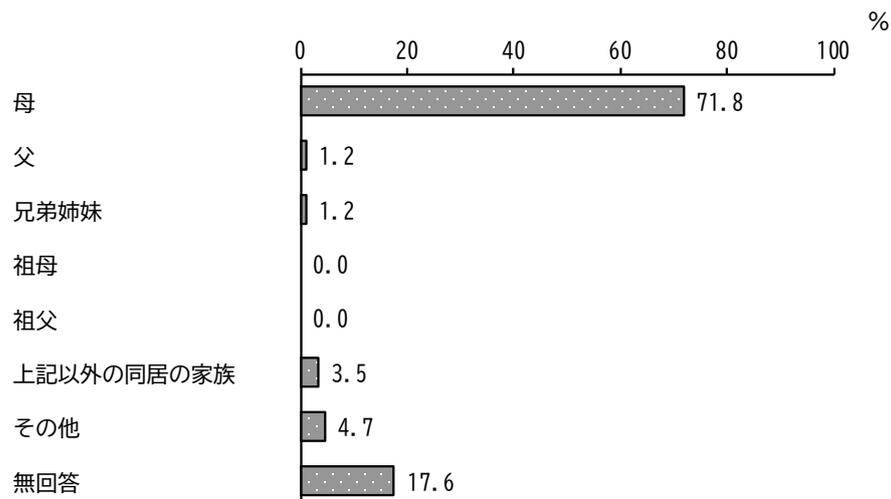
回答者数 = 91



上記のうち「主たる介護者」である方

「母」の割合が71.8%と最も高くなっています。

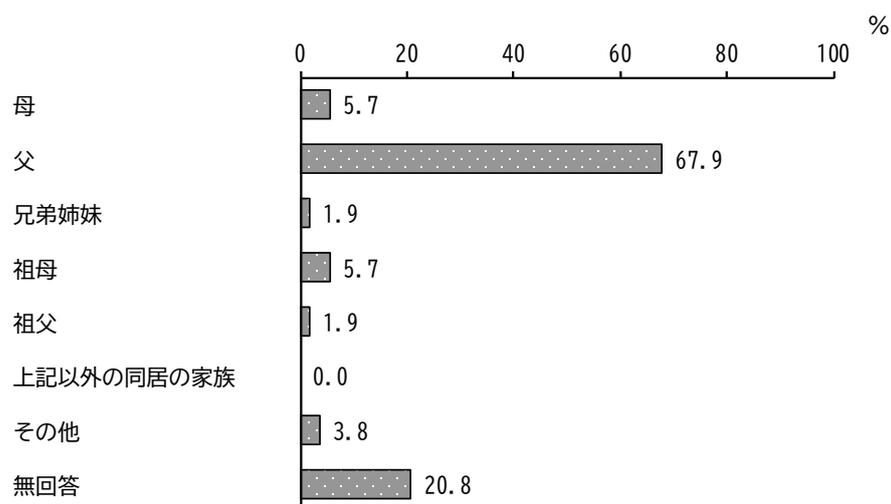
回答者数 = 85



上記のうち「従たる介護者」である方

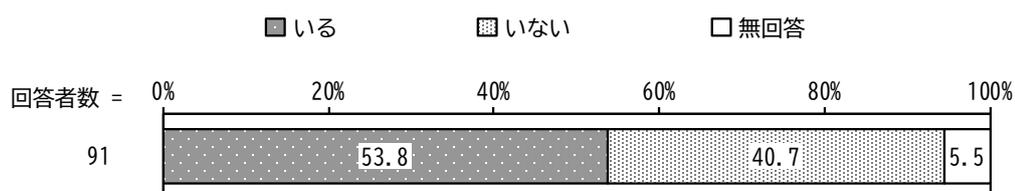
「父」の割合が67.9%と最も高くなっています。

回答者数 = 53



問 15 家族による医療的ケアが困難な場合、代わりにケアを依頼できる相手はいますか。
(どちらかに○)

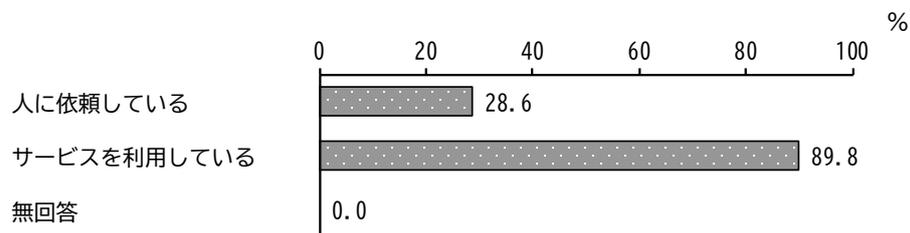
「いる」の割合が53.8%、「いない」の割合が40.7%となっています。



問16 依頼できる相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「人に依頼している」の割合が28.6%、「サービスを利用している」の割合が89.8%となっています。

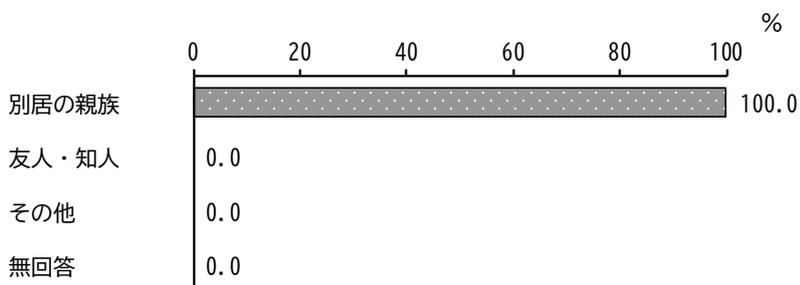
回答者数 = 49



人に依頼している

「別居の親族」の割合が100.0%となっています。

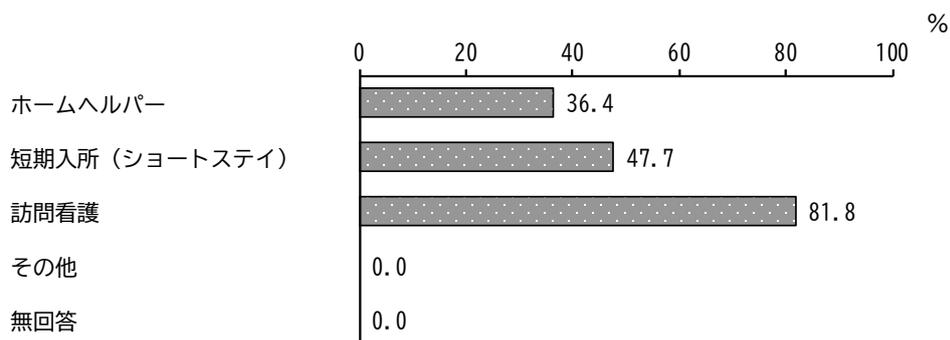
回答者数 = 14



サービスを利用している

「ホームヘルパー」の割合が36.4%、「短期入所（ショートステイ）」の割合が47.7%、「訪問看護」の割合が81.8%となっています。

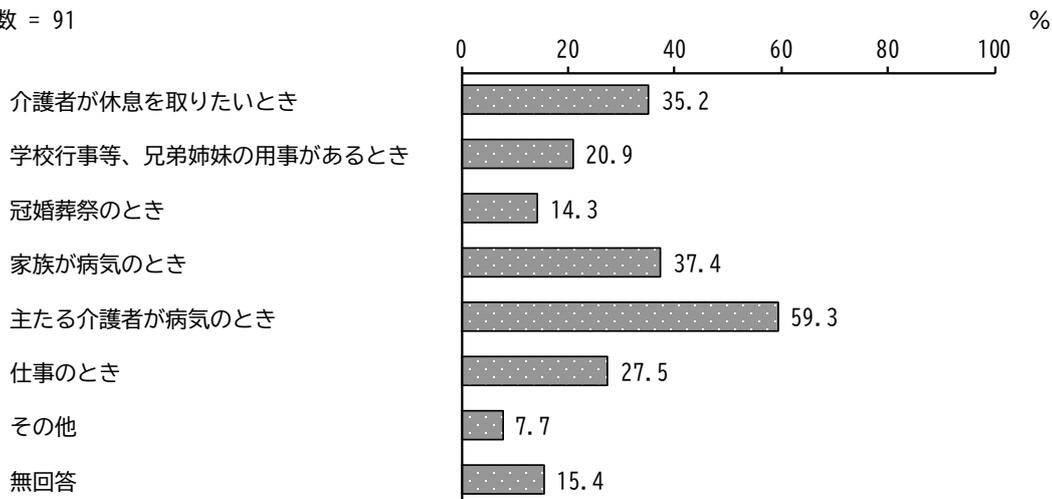
回答者数 = 44



問 17 医療的ケアの代わりに依頼したいと感じるときはいつですか。(3つまでに○)

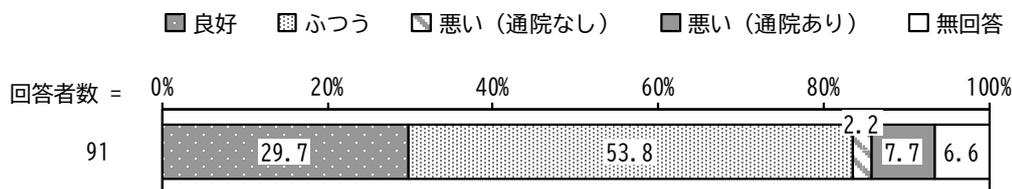
「主たる介護者が病気の時」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「家族が病気の時」の割合が 37.4%、「介護者が休息を取りたいとき」の割合が 35.2%となっています。

回答者数 = 91



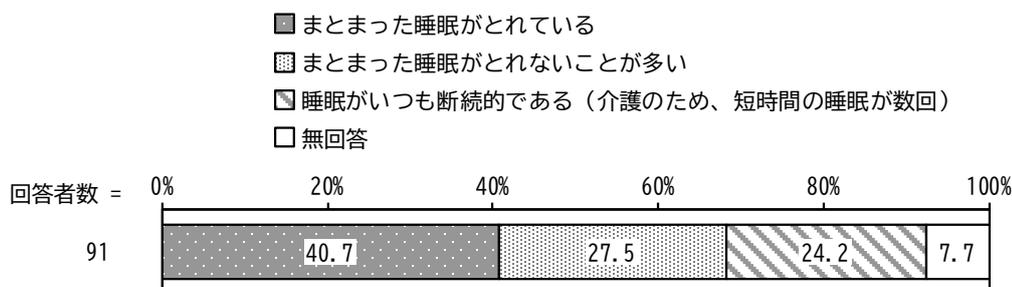
問 18 「主たる介護者」の、現在の健康状態について、お答えください。(1つに○)

「ふつう」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「良好」の割合が 29.7%となっています。



問 19 睡眠状況について、お答えください。(1つに○)

「まとまった睡眠がとれている」の割合が 40.7%、「まとまった睡眠がとれないことが多い」の割合が 27.5%、「睡眠がいつも断続的である (介護のため、短時間の睡眠が数回)」の割合が 24.2%となっています。

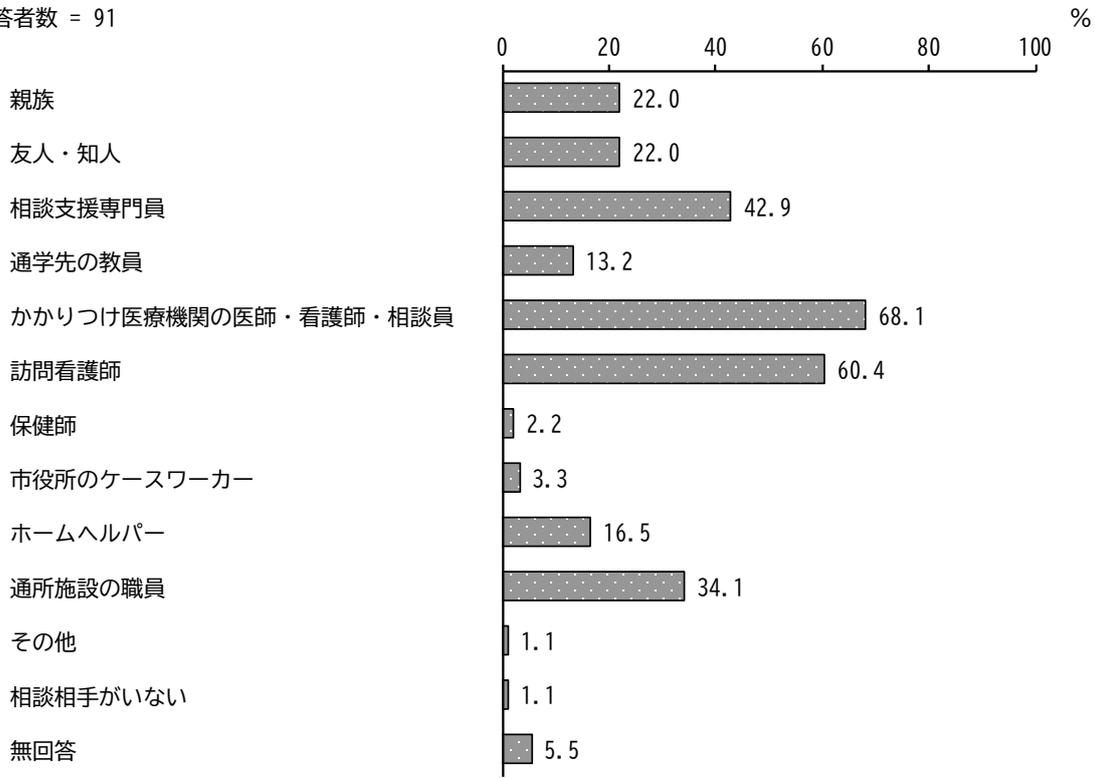


医療的ケア児

問 20 医療的ケアについて、相談できる家族以外の相手について、お答えください。
(あてはまるものすべてに○)

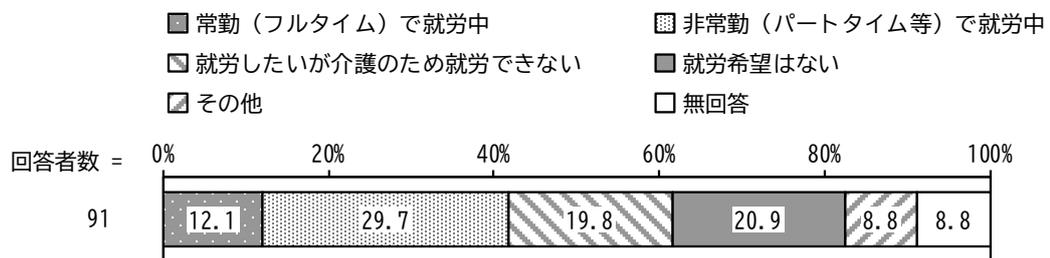
「かかりつけ医療機関の医師・看護師・相談員」の割合が68.1%と最も高く、次いで「訪問看護師」の割合が60.4%、「相談支援専門員」の割合が42.9%となっています。

回答者数 = 91



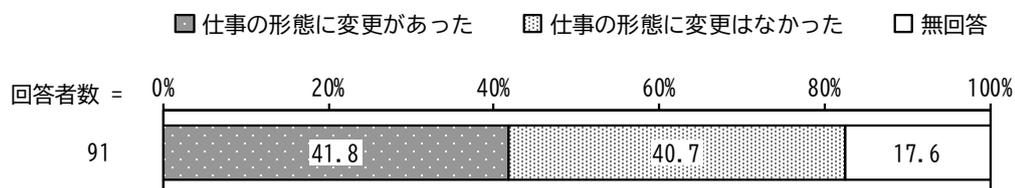
問 21 「主たる介護者」の現在の就労状況について、お答えください。(ひとつに○)

「非常勤（パートタイム等）で就労中」の割合が29.7%と最も高く、次いで「就労希望はない」の割合が20.9%、「就労したいが介護のため就労できない」の割合が19.8%となっています。



問 22 医療的ケアが必要なことによる、家族の仕事の形態（常勤・非常勤、フルタイム・短時間労働等）への影響がありましたか。
（どちらかに○、変更があった場合は内容を記述）

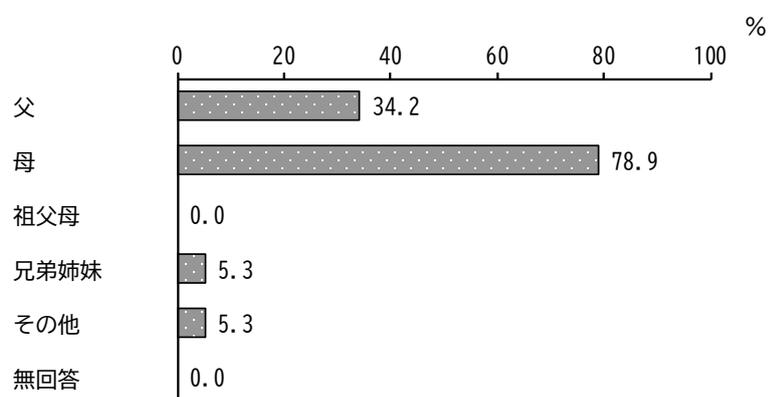
「仕事の形態に変更があった」の割合が41.8%、「仕事の形態に変更はなかった」の割合が40.7%となっています。



変更のあった家族

「母」の割合が78.9%と最も高く、次いで「父」の割合が34.2%となっています。

回答者数 = 38

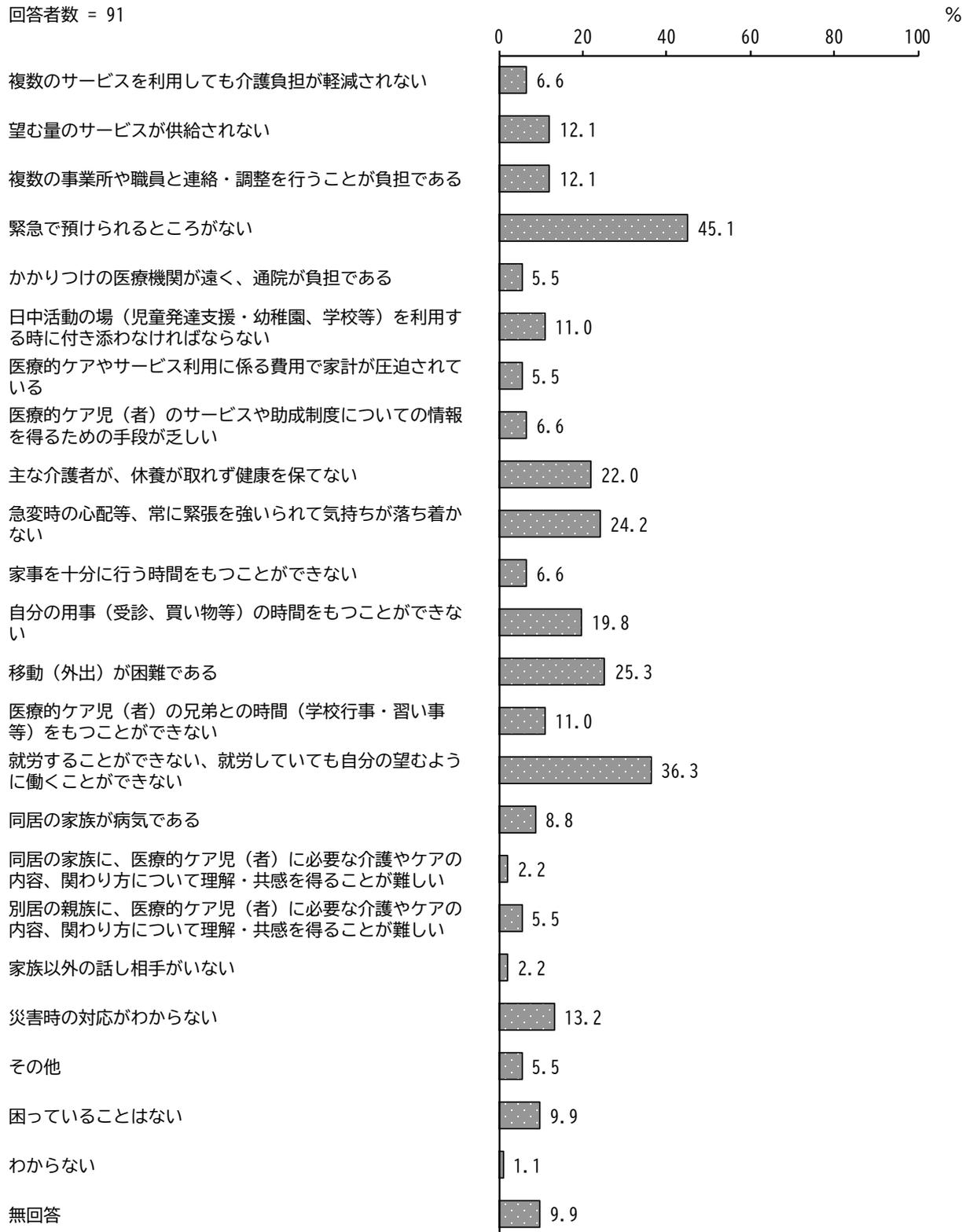


(3) 医療的ケアに伴う家族の不安等について

問 23 医療的ケアの必要な方との生活を送るうえで、主たる介護者の方は、どのようなことに困っていますか。(5つまでに○)

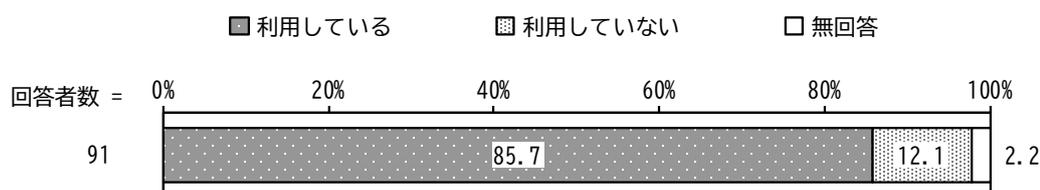
「緊急で預けられるところがない」の割合が45.1%と最も高く、次いで「就労することができない、就労していても自分の望むように働くことができない」の割合が36.3%、「移動(外出)が困難である」の割合が25.3%となっています。

回答者数 = 91



問 24 障害福祉等のサービスを利用している、もしくは利用したことがありますか。
(どちらかに○)

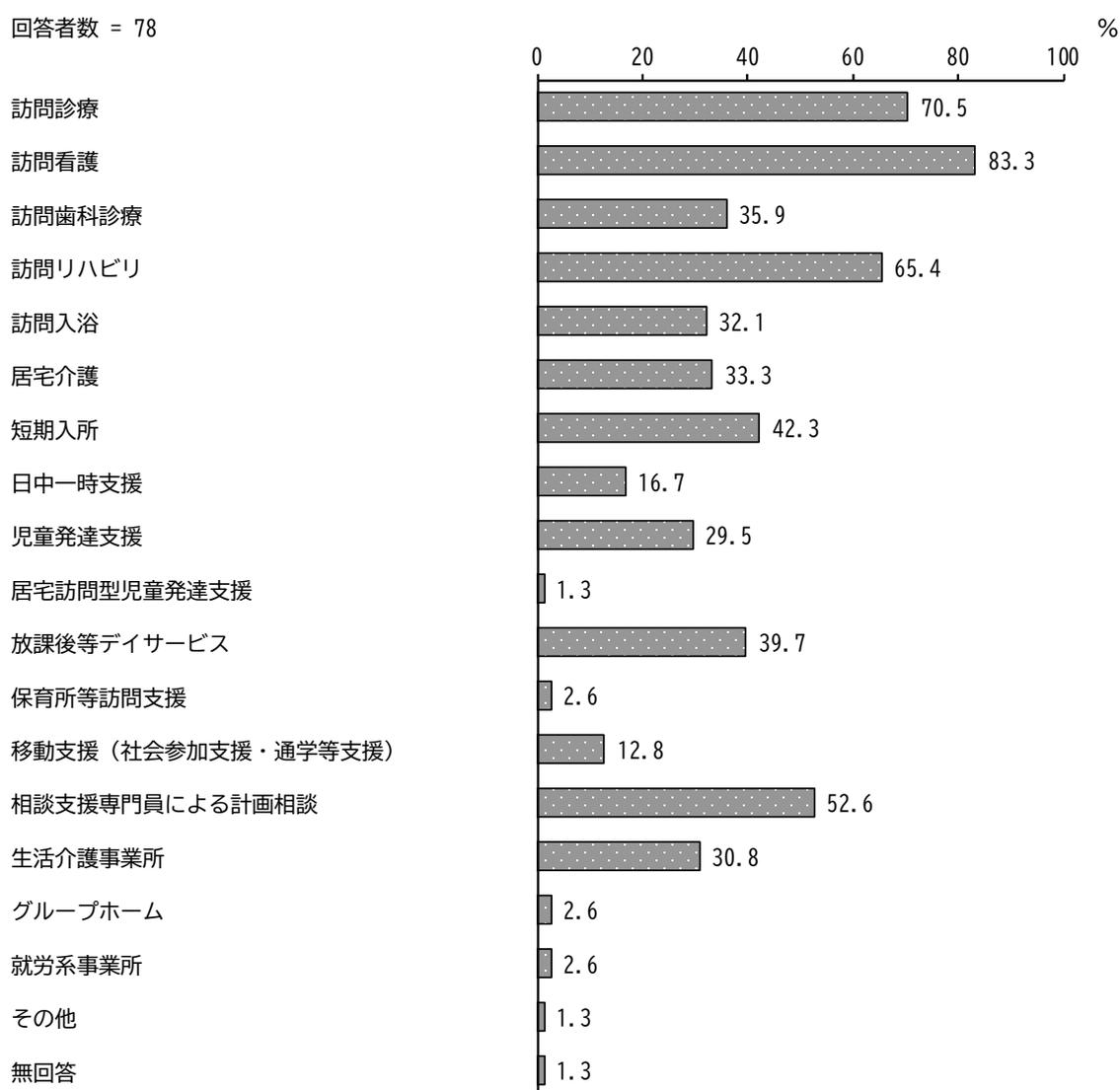
「利用している」の割合が85.7%、「利用していない」の割合が12.1%となっています。



問 24 で「利用している」に○をつけた方におたずねします

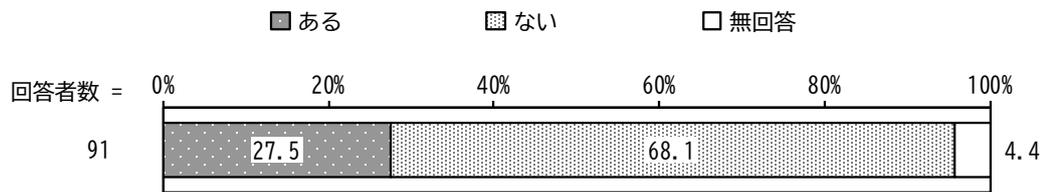
問 25 利用している、もしくは利用したことがあるサービスを以下の選択肢から選んでください。(あてはまるものすべてに○)

「訪問看護」の割合が83.3%と最も高く、次いで「訪問診療」の割合が70.5%、「訪問リハビリ」の割合が65.4%となっています。



問 26 サービスを受けるにあたって（受けようとしたとき）、事業所に受け入れ（サービス提供）を拒否されたことはありますか。（どちらかに○）

「ある」の割合が27.5%、「ない」の割合が68.1%となっています。

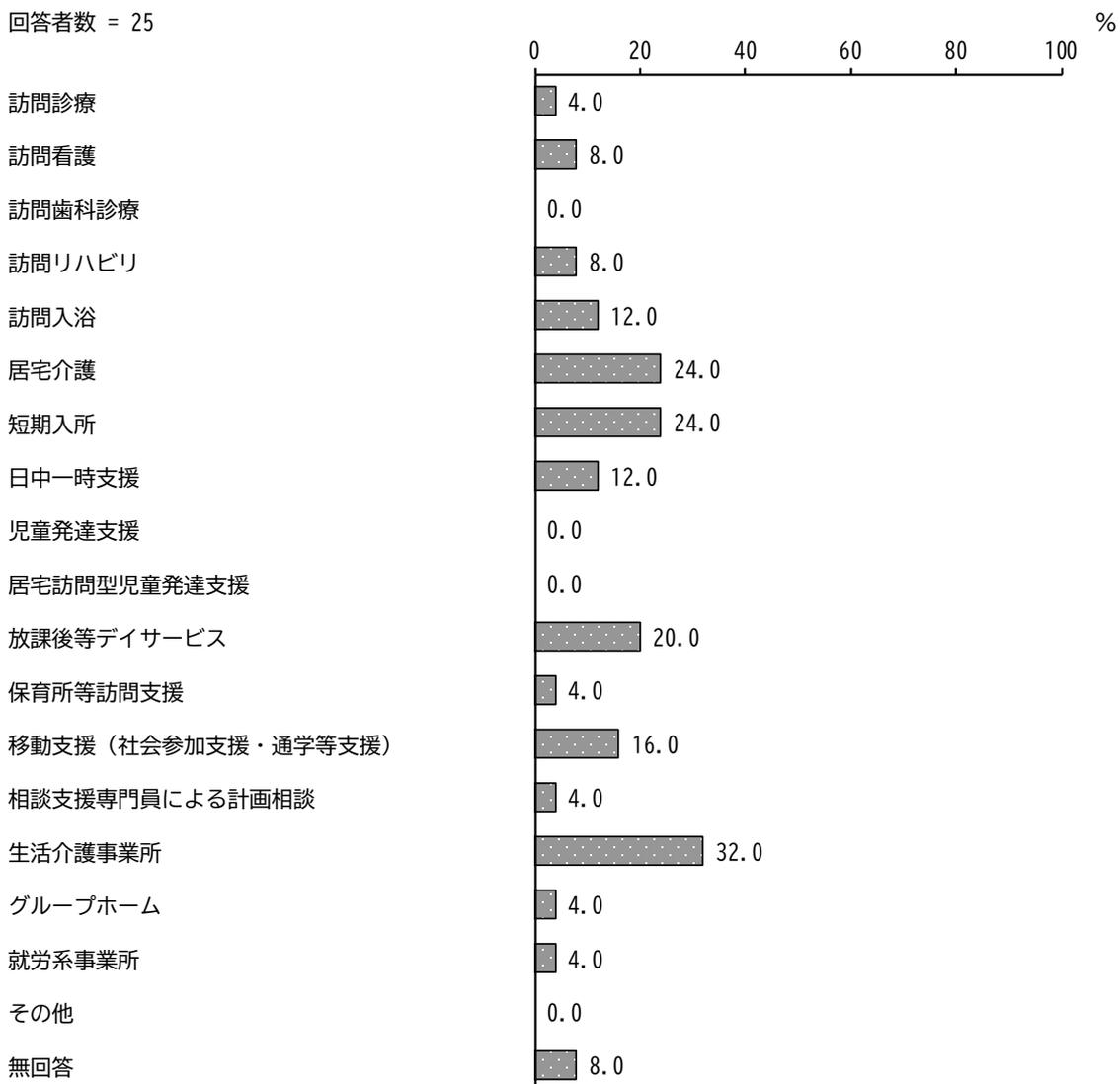


問 26 で「ある」に○をつけた方におたずねします

問 27 拒否されたサービスの種別を以下の選択肢から選んでください。また、拒否された理由を以下の選択肢から選んでください。（あてはまるものすべてに○）

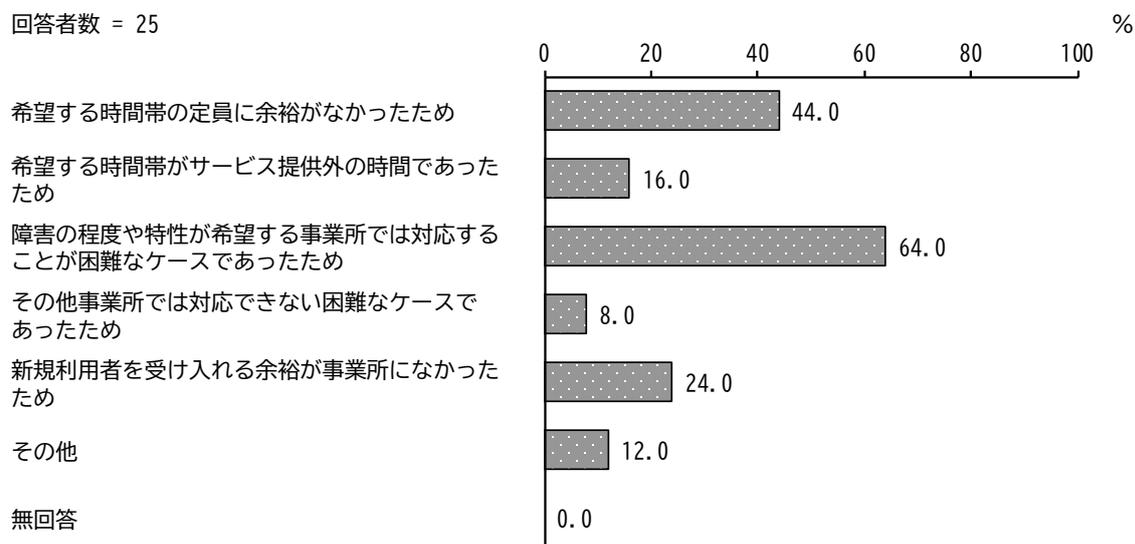
①拒否されたサービスの種別

「生活介護事業所」の割合が32.0%と最も高く、次いで「居宅介護」、「短期入所」の割合が24.0%となっています。



②拒否された理由

「障害の程度や特性が希望する事業所では対応することが困難なケースであったため」の割合が64.0%と最も高く、次いで「希望する時間帯の定員に余裕がなかったため」の割合が44.0%、「新規利用者を受け入れる余裕が事業所になかったため」の割合が24.0%となっています。

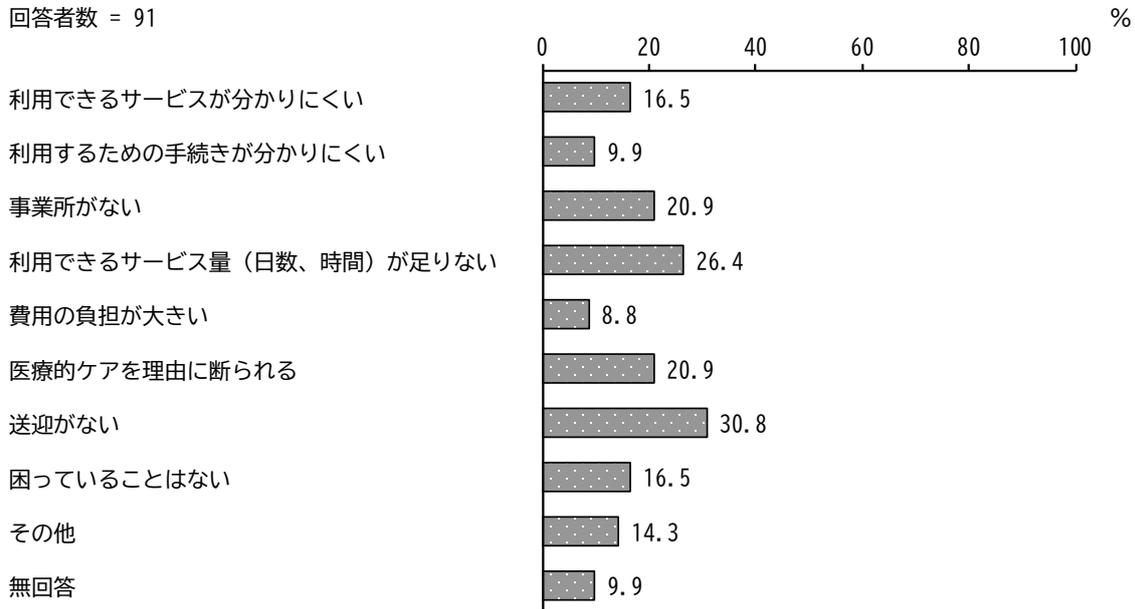


(主なその他意見)

- ・理由は教えてくれないのでわからない。優先度があるようだ。
- ・インスリン注射をしているので入れる施設がない（看護師さんがいないのでダメ）。
- ・地域の小学校に通学しているため、肢体不自由児に対応しているデイサービスが、送迎困難。（支援学校のための送迎が殆ど）地域の小学校に送迎しているデイサービスは、車椅子や医療的ケアへの対応が困難。

問 28 サービス利用について困っていることについてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

「送迎がない」の割合が 30.8%と最も高く、次いで「利用できるサービス量（日数、時間）が足りない」の割合が 26.4%、「事業所がない」、「医療的ケアを理由に断られる」の割合が 20.9%となっています。



(主なその他意見)

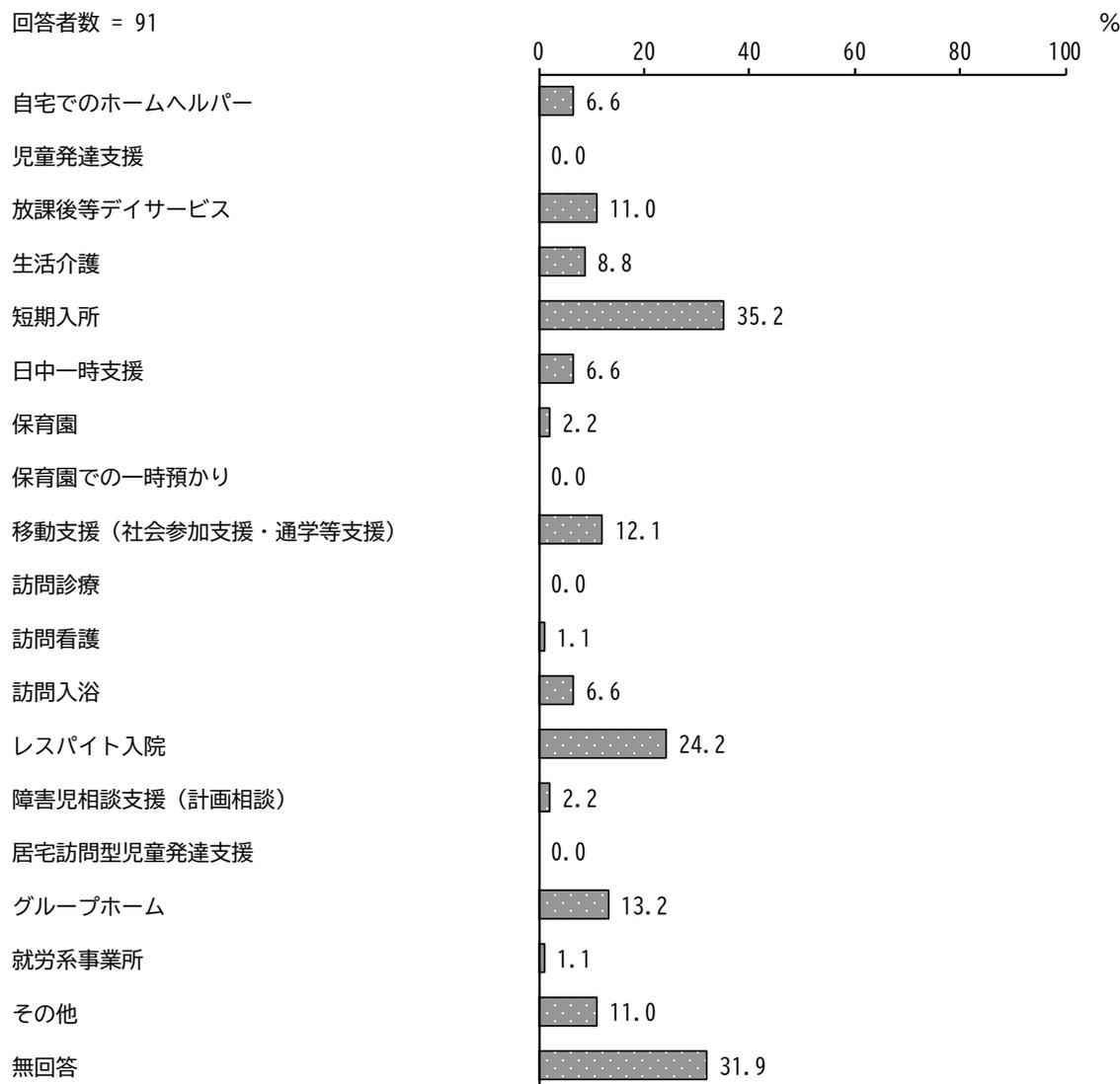
- ・ 出かけるのが大変なため、訪問サービスを利用しなければやっていけないことは分かっている。しかし家族以外の方が家の中を出入りするため、洗面所、お風呂場、リビングを常に不潔に思われなように掃除にも気を配らざるをえないのが実態。まねくにもストレスが発生するが、家もきれいになるしと頑張ってはいるけれども・・・ウーム。
- ・ 事業所ごとに、医師の指示書が必要になることがある。
- ・ 人員不足
- ・ 主たる介護者が1人で、体調不良やケガなどをした場合、買いもの代行があるととても助かるのですが！
- ・ 移動支援をうけたいが、大学では補助がなく、また遠距離で送迎時のみで良いのに常時ついていないと支援はうけれないから時間的に出来ないと言われた。
- ・ 短期入所は千葉市と四街道市を利用しており、共に遠い。
- ・ 手続きの内容は理解できるが手間がかかる※例にレスパイトの事前受診、取り寄せる紙の多さ
- ・ 介護者が数日不在となる時の預け場所がない

(4) サービス利用について

問 29 不足していると感じるサービスをお答えください。(3つまでに○)

「短期入所」の割合が35.2%と最も高く、次いで「レスパイト入院」の割合が24.2%、「グループホーム」の割合が13.2%となっています。

回答者数 = 91



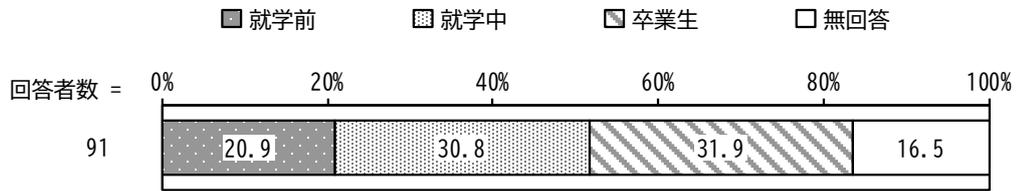
(主なその他意見)

- ・生活介護事業所を利用しているが送迎は自転車による送迎にて通所しています。往路は自転車による移動が良いのですが、復路のみ移動支援を利用したいです。
- ・自分が具合悪かったり、少し遠出が必要なとき、短期入所したいがせまき門だったり、実さい何かの名目がないと依頼できなかつたりもする。
- ・仕事の為 (朝8:00~10:00 生活介護利用前に困る。受け入れ先がない。) 休息の為の短期入所、レスパイトがない。数時間あれば良い時に荷物を作り利用する負担ある。在宅レスパイトを望む。
- ・フルタイムではとても働けない。病院や家で使うものも高いので出費ばかり。家でできる副業の案内や、あずかり時間、送迎を充実させて欲しい。
- ・市内の短期入所できる事業所が少ない。利用するための制限がある。

(5) 医療的ケア児（者）に対する教育・保育支援について

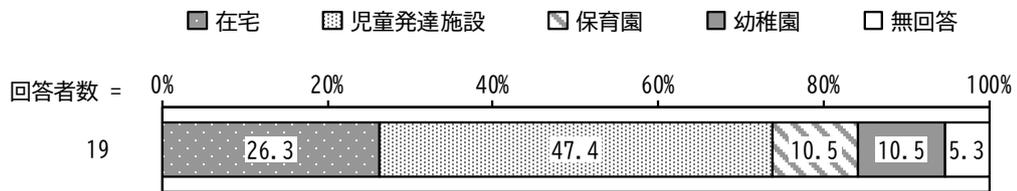
問 30 現在の、就学等の状況をお答えください。（それぞれあてはまるものに○）

「就学前」の割合が20.9%、「就学中」の割合が30.8%、「卒業生」の割合が31.9%となっています。



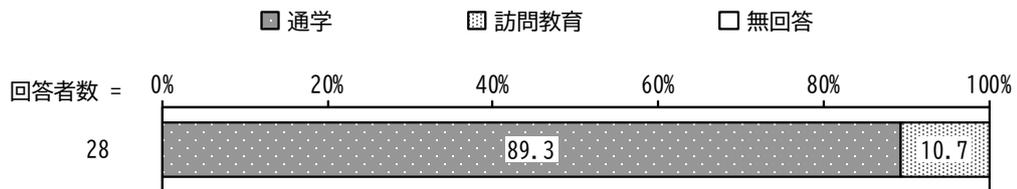
就学前

「児童発達施設」の割合が47.4%と最も高く、次いで「在宅」の割合が26.3%、「保育園」、「幼稚園」の割合が10.5%となっています。



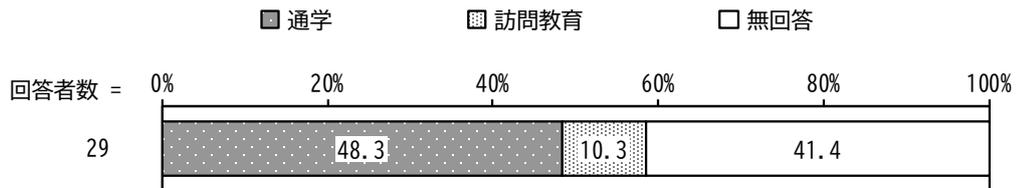
就学中

「通学」の割合が89.3%、「訪問教育」の割合が10.7%となっています。



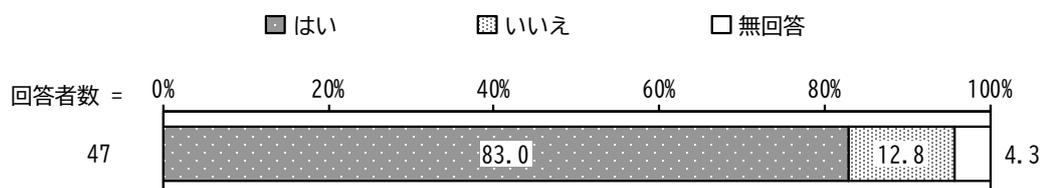
卒業生

「通学」の割合が48.3%、「訪問教育」の割合が10.3%となっています。



問31 現在の、就学等の形態は、希望通りのものですか。(どちらかに○)
また、希望通りにならなかった理由は何ですか。

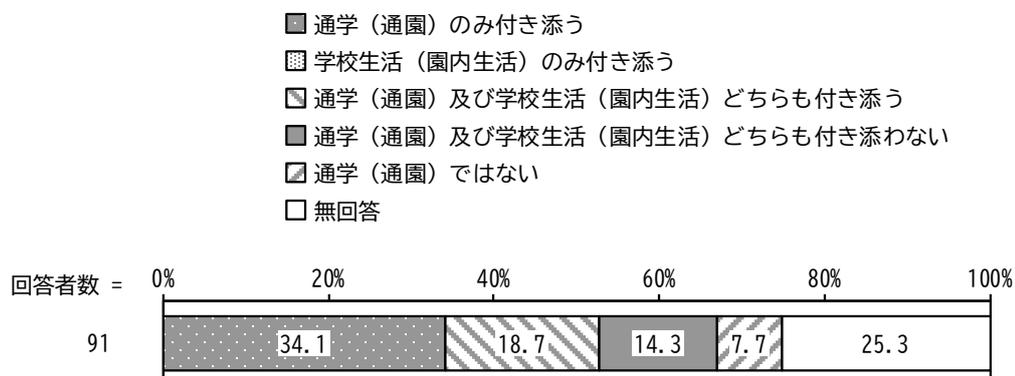
「はい」の割合が83.0%、「いいえ」の割合が12.8%となっています。



※ここからの設問は、既に卒業された方は就学当時の状況についてご回答ください。
また、就学前の方は施設・園内生活、通園についてご回答ください。

問32 学校生活（園内生活）・通学（通園）における、保護者等の付き添いはありますか。
(1つに○)

「通学（通園）のみ付き添う」の割合が34.1%と最も高く、次いで「通学（通園）及び学校生活（園内生活）どちらも付き添う」の割合が18.7%、「通学（通園）及び学校生活（園内生活）どちらも付き添わない」の割合が14.3%となっています。

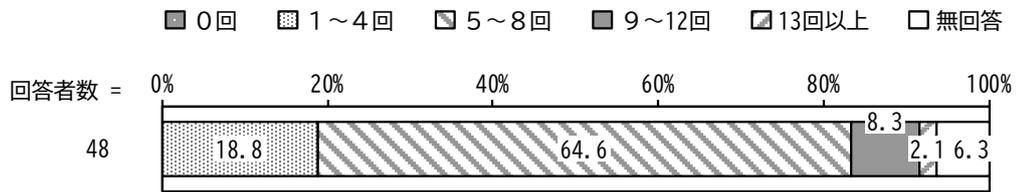


医療的ケア児

問 33 通学（通園）における、保護者等の付き添いの平均回数・人数をお答えください。
（数字を記入）

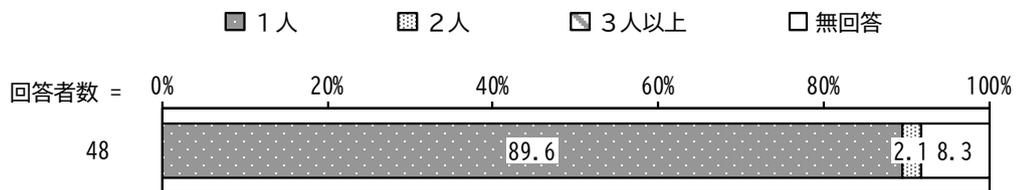
週の平均回数

「5～8回」の割合が64.6%と最も高く、次いで「1～4回」の割合が18.8%となっています。



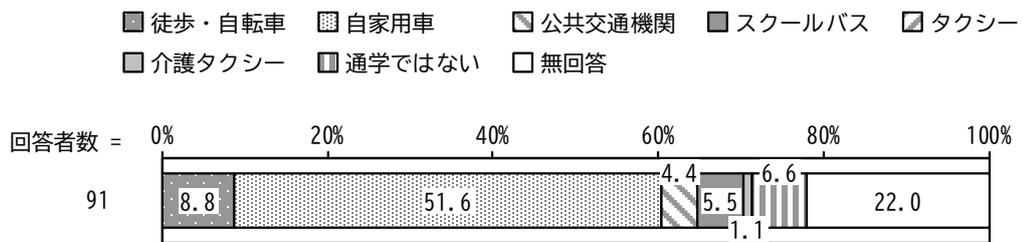
付き添いの人数

「1人」の割合が89.6%、「2人」の割合が2.1%となっています。



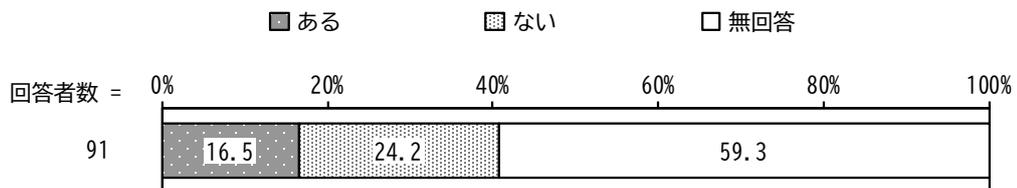
問 34 通学（通園）における、主な交通手段は何ですか。（1つに○）

「自家用車」の割合が51.6%と最も高くなっています。



医療的ケアを理由に利用を断られたことが

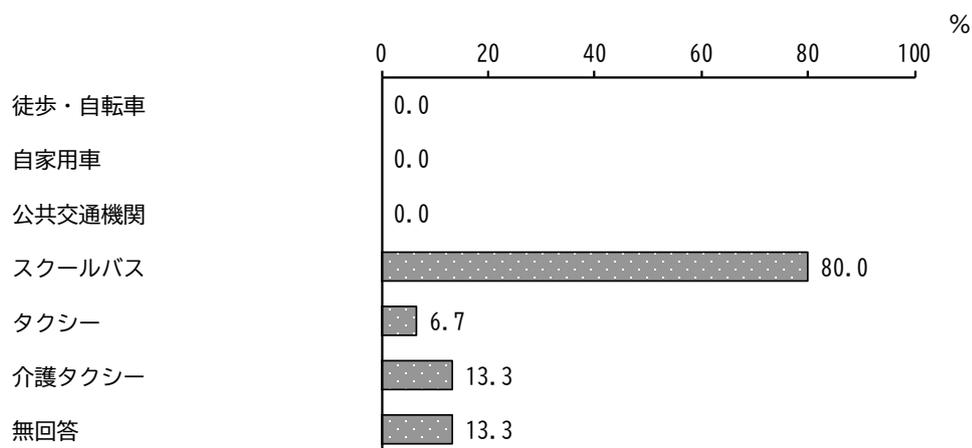
「ある」の割合が16.5%、「ない」の割合が24.2%となっています。



「ある」場合、断られた交通手段

「スクールバス」の割合が80.0%と最も高く、次いで「介護タクシー」の割合が13.3%となっています。

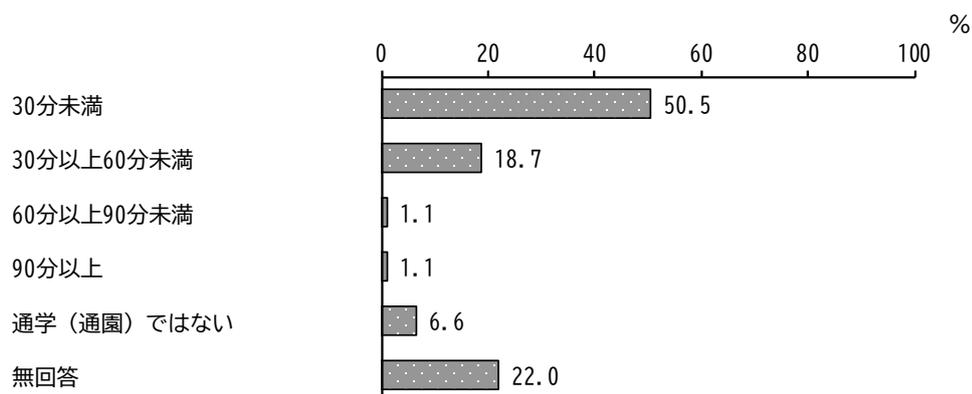
回答者数 = 15



問 35 通学（通園）における、自宅から学校までの片道所要時間はどれだけですか。（1つに○）

「30分未満」の割合が50.5%と最も高く、次いで「30分以上60分未満」の割合が18.7%となっています。

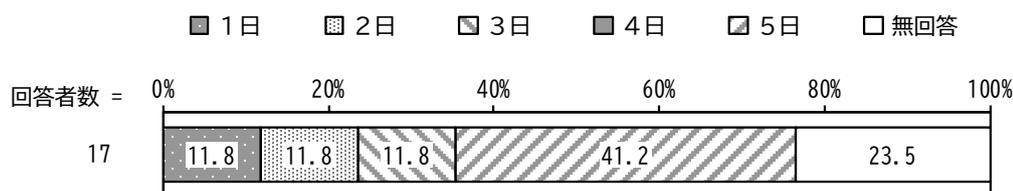
回答者数 = 91



問 36 学校生活（園内生活）における、保護者等の付き添いの日数・時間をお答えください。（数字を記入）

付き添いの日数

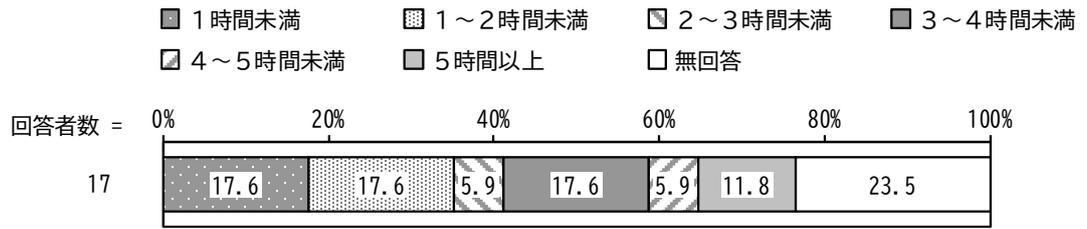
「5日」の割合が41.2%と最も高く、次いで「1日」、「2日」、「3日」の割合が11.8%となっています。



医療的ケア児

付き添いの時間（1日あたり）

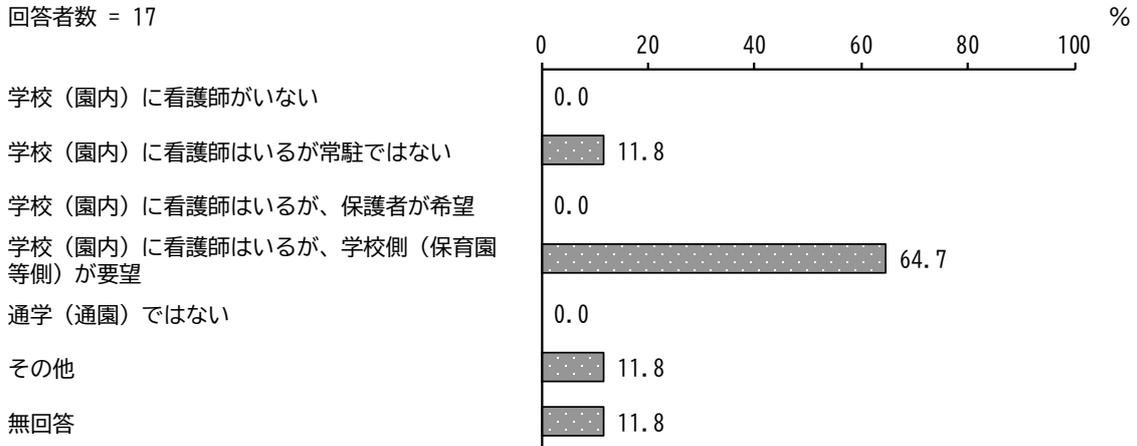
「1時間未満」、「1～2時間未満」、「3～4時間未満」の割合が17.6%と最も高くなっています。



問 37 学校生活（園内生活）における、保護者の付き添いの理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「学校（園内）に看護師がいるが、学校側（保育園等側）が要望」の割合が64.7%と最も高く、次いで「学校（園内）に看護師がいるが常駐ではない」の割合が11.8%となっています。

回答者数 = 17



（主なその他意見）

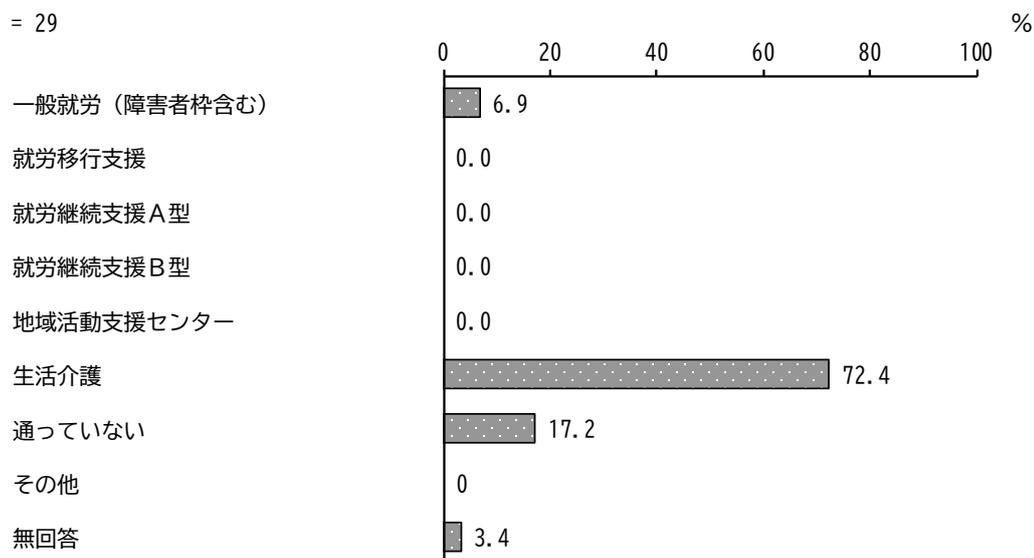
- ・初めは看護師への引きつぎの為、その後は行事等により必要に応じて。
- ・通常は付き添わないが（退院後など）、体力的に不安が有る時に付き添い（待機室にて）した。
- ・精神的に母親と離れることができないため。
- ・通学の送迎の為。
- ・担任が注入の手技の県からの認定を得るまでは、保護者が注入していた。
- ・全面介助条件
- ・母子通園だから
- ・行事。付き添いを学校が求めてくる。

※問 38、問 39 の設問は卒業生の方のみお聞きします

問 38 現在の就労・通所等の状況について、お答えください。(1つに○)

「生活介護」の割合が72.4%と最も高くなっています。

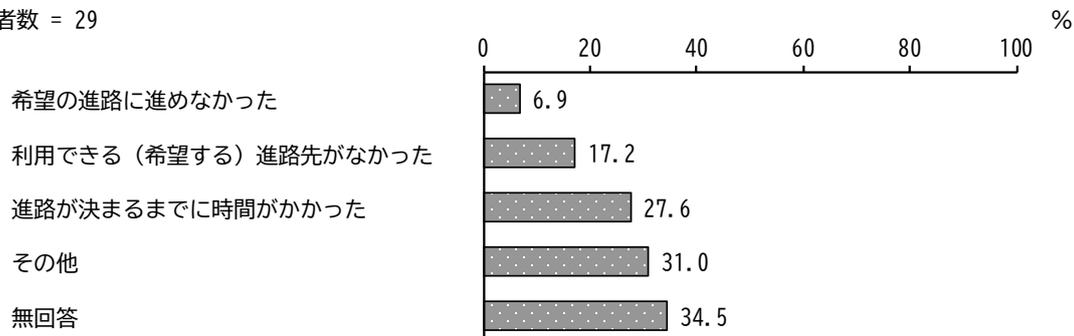
回答者数 = 29



問 39 進路を決める際の、問題点は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「希望の進路に進めなかった」の割合が6.9%、「利用できる(希望する)進路先がなかった」の割合が17.2%、「進路が決まるまでに時間がかかった」の割合が27.6%となっています。

回答者数 = 29



(主なその他意見)

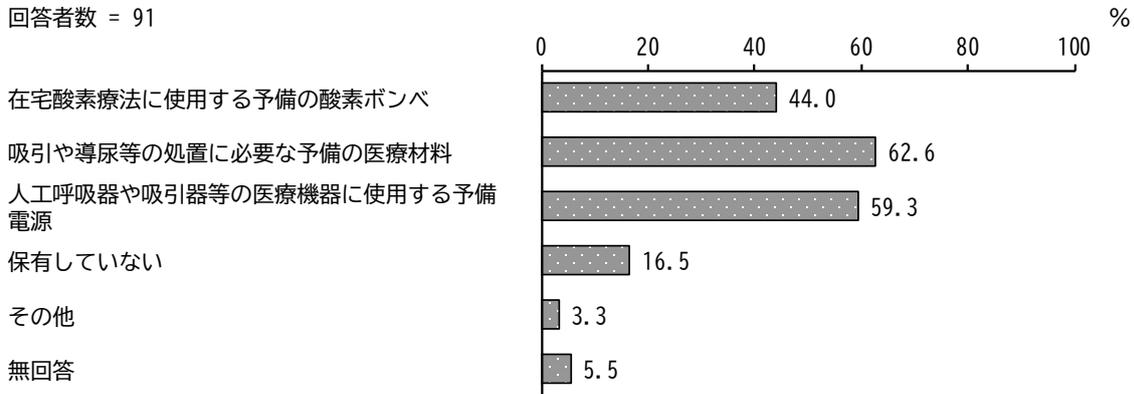
- ・母子家庭で一人で24H、特に深夜の介護がある為、パート勤務日に利用できる事業所探しに苦労した。
- ・車で送迎、又は付き添いをする必要があるため、近くに駐車場のある事業所でないと通えないため。事業所は駅の近くにあることが多いが、駅の近くは車を停める場所が少なく不便です。
- ・障害者を受入れる大学と距離、時間
- ・進路先の空き具合
- ・看護師をはじめとする人手不足

(6) 災害時・緊急時の対策について

問 40 災害用に保有している、医療的ケアに関する物品は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「吸引や導尿等の処置に必要な予備の医療材料」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「人工呼吸器や吸引器等の医療機器に使用する予備電源」の割合が 59.3%、「在宅酸素療法に使用する予備の酸素ポンペ」の割合が 44.0%となっています。

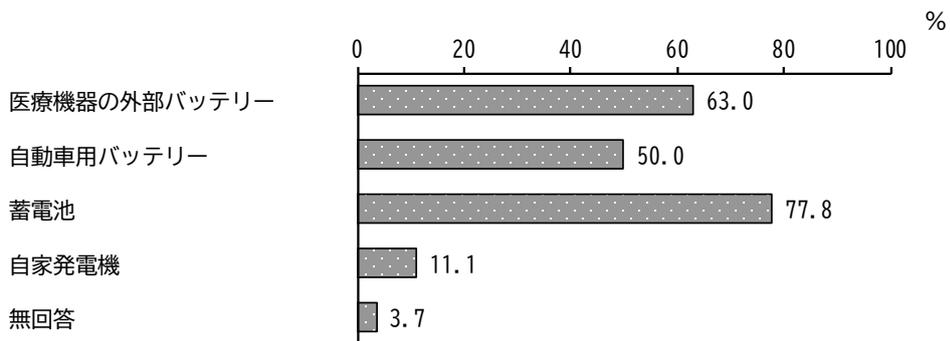
回答者数 = 91



保有している人工呼吸器や吸引器等の医療機器に使用する予備電源

「蓄電池（ポータブル電源等）」の割合が 77.8%と最も高く、次いで「医療機器の外部バッテリー」の割合が 63.0%、「自動車用バッテリー」の割合が 50.0%となっています。

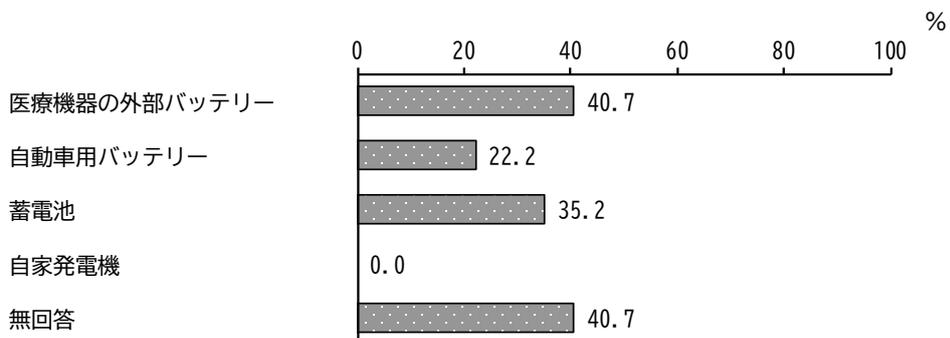
回答者数 = 54



実際に使用した経験がある人工呼吸器や吸引器等の医療機器に使用する予備電源

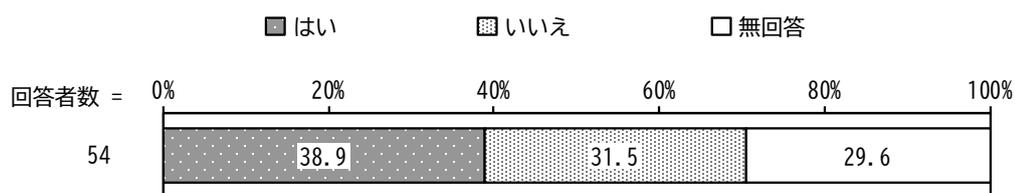
「医療機器の外部バッテリー」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「蓄電池（ポータブル電源等）」の割合が 35.2%、「自動車用バッテリー」の割合が 22.2%となっています。

回答者数 = 54



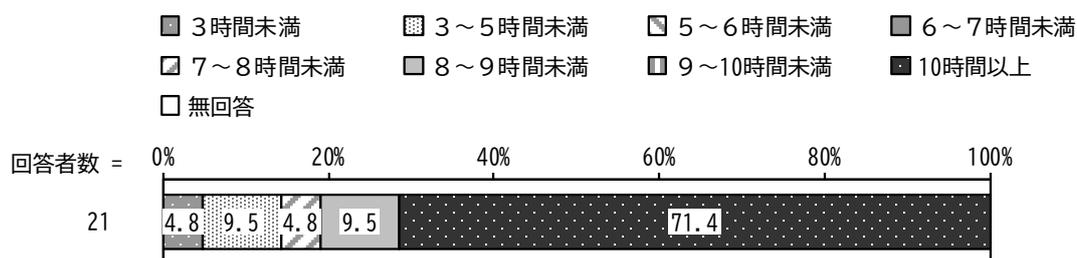
人工呼吸器の内部バッテリー・外部バッテリーの総稼働時間を把握していますか

「はい」の割合が38.9%、「いいえ」の割合が31.5%となっています。



人工呼吸器の内部バッテリー・外部バッテリーの総稼働時間

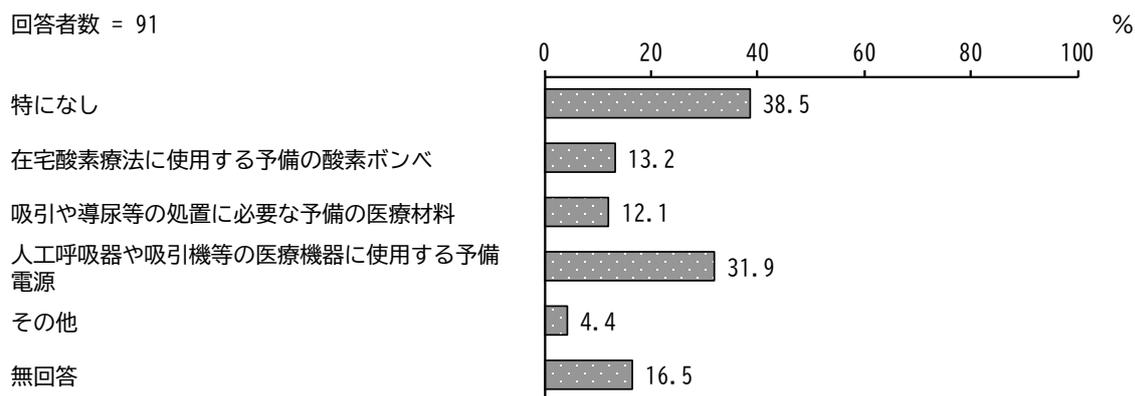
「10時間以上」の割合が71.4%と最も高くなっています。



問41 災害用に保有していないが、必要だと思うものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

「在宅酸素療法に使用する予備の酸素ボンベ」の割合が13.2%、「吸引や導尿等の処置に必要な予備の医療材料」の割合が12.1%、「人工呼吸器や吸引機等の医療機器に使用する予備電源」の割合が31.9%となっています。

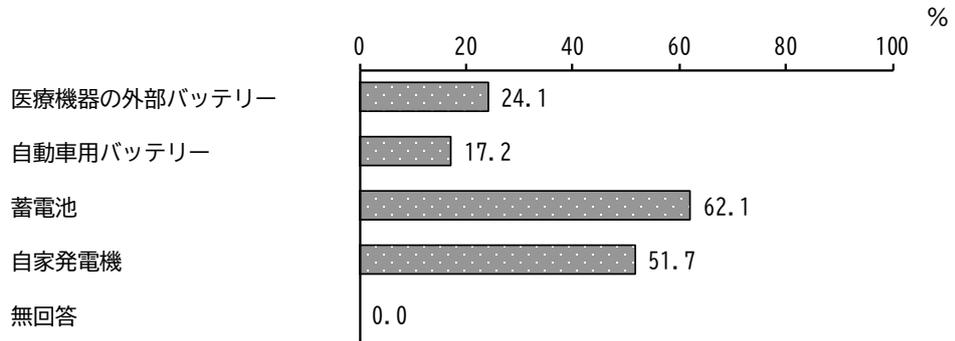


医療的ケア児

予備電源の内容

「蓄電池（ポータブル電源等）」の割合が62.1%と最も高く、次いで「自家発電機」の割合が51.7%、「医療機器の外部バッテリー」の割合が24.1%となっています。

回答者数 = 29

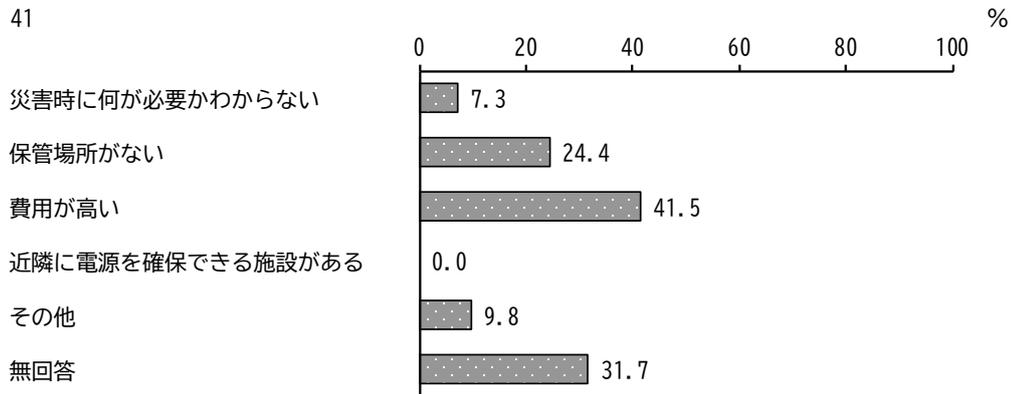


問41で「在宅酸素療法に使用する予備の酸素ボンベ」から「その他」（保有していないが必要なものがある）と答えた方にお聞きします

問42 災害時備品を、保有していない理由について教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

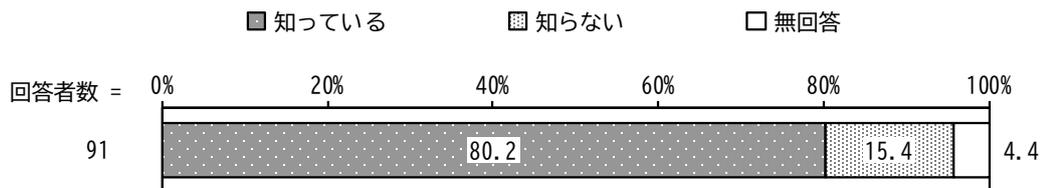
「費用が高い」の割合が41.5%と最も高く、次いで「保管場所がない」の割合が24.4%となっています。

回答者数 = 41



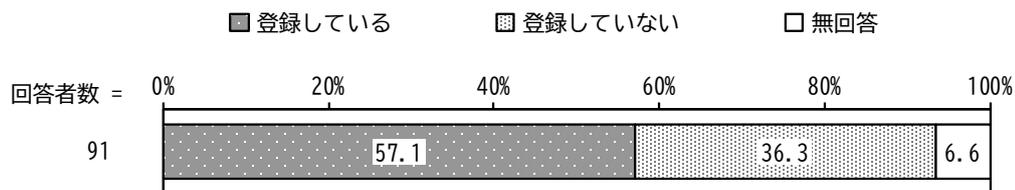
問43 災害時（火事や地震などのとき）の避難所・避難場所を知っていますか。（1つに○）

「知っている」の割合が80.2%、「知らない」の割合が15.4%となっています。



問 44 避難行動要支援者避難支援制度を知っていますか（1つに○）

「登録している」の割合が57.1%、「登録していない」の割合が36.3%となっています。



登録していない理由

「知っているが、登録の方法が分からない」の割合が33.3%と最も高く、次いで「知らなかったの
で、今後登録したい」の割合が24.2%、「知っているが、登録したくない」の割合が15.2%となっ
ています。

